

商学部報

INDEX

- 卷頭言 01
- 学部 News 02
- GMP に参加しませんか 03

特集 ●●●●●●

専門ゼミ紹介 05



- 懸賞論文 24
- 学術情報検索 30
- 海外留学 31
- 学生生活・進路 33
- 学部・修士5年一貫修了制度 35
- 進学 37



大学生活での思考する力と実現する力



商学部教務担当教務副主任

加納 和子

昨今のAIの発達は実に目覚ましく、教育の現場も日々変化を求められている。しかし道筋を考え、方向性を判断するのは、現時点ではやはり人間である。AIが発展し様々な実装を担うほど、人間の思考の質がより問われるようになってきていると思う。

こうした時代に大学で培うべきものは何か。それは問題意識に根付いた思考の訓練、そして問いに対して自ら答えを導き出していく力であろう。「エビデンスを吟味し、問題を単純化せず根気よく取り組み、調べられることは調べ、判明した事実に誠実であること」。これはアビジット・V・バナジー氏とエステル・デ

ュフロ氏による著書『絶望を希望に変える経済学』(村井章子訳、日本経済新聞出版、原題*Good Economics for Hard Times*)の一節である。引用は一部に過ぎないが、この言葉は分断が進む近年の政治動向に対して筆者らができることとして述べられたものである。強い危機感を抱きながらも、思考と分析の強さを信じ、事実を誠実に受け止めようとする姿勢がうかがえる。

バナジー氏とデュフロ氏は、マイケル・クレマー氏と共に、「世界の貧困軽減に向けての実験的アプローチ」により2019年にノーベル経済学賞を受賞した。3氏はランダム化比較試験を開発経済学における政策評価手法として確立し、貧困問題などの解明に大きな前進をもたらした。デュフロ氏らの著作には、既存の経済学では十分に考慮されていなかった「貧しい」人々の行動を理解することをはじめ、なぜ人々は現実にもられる選択をするのかという問いが貫かれている。この問いの原動力は経済理論が描く世界と現実とのずれからくる強烈な違和感であったようだ。違和感を言語化することは難しく、さらに観察から得た事実を堅牢に構築された既存の体系に分析可能なものとして組み込むことは並大抵のことではない。先の一節からは、大きな功績の背景には地道な観察と粘り強い思考があったことがうかがわれる。

こうした思考の密度と誠実さこそ、今後大学での学びにおいてより重要となっていくであろう。商学部ではビジネスを多様な切り口から学ぶ。エビデンスを吟

味する方法はひとつではなく、また一朝一夕に身につくものでもないが、そのひとつでも身につけることはものごとを観察し思考するうえで強い力となる。またビジネスを理解する上では宗教や文化の学びも欠かせない。私たちが当たり前と思っている行動様式や価値観がいかに宗教や文化に根ざしたものであるかに気づかされることもあろう。客観的と思われる分析枠組みにも構築した研究者たちやその時代の価値観が入り込んでいることがある。自身の関心にそった学問体系を学び先人に耳を傾けながらも、これからを担う世代の感覚を大事にしてほしいと思う。

そして、思考を実現する力は、様々な視点を持つ人や仲間と向き合い協力することで強くなる。昨年度、ゼミ生が早稲田祭に焼きそばの屋台を出店し1500食近くを販売した。支払いや提供の方法も工夫し、大成功を収めたようである。代々受け継がれたノウハウなどない中、材料や備品の調達から当日の運営のすべてを学生たちが協力して実現した。ゼミ生のやり遂げる力をみて、大学生活で育まれるものは教室の外にも広がっていると改めて感じた。その背景には、互いへの信頼と敬意があったと確信している。これらはいかなる組織においても必要なものだと思う。

大学生活は多くの学びと経験の場でもある。商学部で学ぶ皆さんには、商学部で過ごす時間の中で、様々な人と向き合い、共に思考し何かを実現する経験をぜひ大切にしてほしいと思う。

「全国学生保険学ゼミナール」にて中出ゼミの学生がダブル受賞しました

全国学生保険学ゼミナール(Risk and Insurance Seminar)主催による2025年度保険商品アイデアコンテストで、中出哲教授ゼミナールから応募した2チームの作品がそれぞれ1位・2位を受賞しました。

審査は、損害保険、生命保険の業界団体などの専門家によって約2か月をかけてなされ、3月下旬に結果が公表されました。

1位を受賞した「海上輸送における遅延損害を補償する新保険」は、物流遅延が製造業に与える財務リスクに対し、補償空白に陥りやすい中小メーカーをターゲットとした保険です。遅延日数などの客観的なデータに基づいて迅速に保険金を支払うパラメトリック型を導入し、初動対応から納期遅延に伴う違約金まで幅広くカバーする独自のスキームが特徴です。昨今の不安定な社会情勢に即した社会的意義の高さや、客観データに基づく実効性の高い制度設計が高く評価されました。

また、2位を受賞した「クレジットカード組み込み型個人版保証保険」は、前払いサービス企業の倒産リスクから消費者を守るための提案です。企業が保険料を負担してクレジットカードに補償を付帯させることでより多くの消費者に補償を提供し、カード会社の決済インフラと、独自の信用スコアを活用するスキームが特徴です。身近な倒産リスクに対応する社会的意義の高さや、前払い市場全体の健全性と安心を高める制度設計が高く評価されました。

ゼミ生は、国内外の社会課題や既存の保険制度、関連する統計データを幅広く調査しました。保険学という学問を入り口として、社会や経済の仕組みを多角的に捉える面白さを実感し、専門的な学びへの関心を一層深めることができました。



News 1

第25回日経STOCKリーグにて奥村ゼミの学生が敢闘賞を受賞しました

奥村ゼミのチームが、第26回日経STOCKリーグにおいて敢闘賞を受賞しました。

中・高・大学生を対象にした金融・経済に関するコンテストである第26回日経STOCKリーグにおいて、本学商学部・奥村雅史教授ゼミナールの3年生4名からなるチーム(有永颯良・岡崎圭吾・清水里紗・遠間俊佑)が、大学・専門学校部門の全参加763チーム(大学742チーム、専門学校21チーム)中、最優秀賞と部門優秀賞に次ぐ敢闘賞を受賞しました。同コンテストで早稲田大学のチームの入賞は2回目です。

このコンテストは日本経済新聞社が主催、野村ホールディングスが協賛するもので、各参加チームが独自の投資テーマを実現するための株式ポートフォリオを提案するレポートを作成し、その内容を投資のプロが評価します。

同チームが受賞したレポートは、企業の研究開発活動を「質」という視点から評価し、社会課題との好循環を促進するポートフォリオを提案しています。財務情報、株価情報、その他の多様な情報を分析し、さらに官公庁や企業の関連部署へのインタビューを重ねることによって説得力のあるレポートを完成させています。

実際の入賞レポートと審査員による講評は以下のリンクをご覧ください。

日経STOCKリーグ(外部リンク) / <https://manabow.com/sl/result/26/index.html>



News 2

Dean's List制度の表彰を行いました

2023年度より、商学部ではDean's List制度を導入しました。この制度は、学業・スポーツ・文化芸術活動等で優れた成果を残した商学部生を対象に、日々の努力とその成果を表彰し、諸活動に対する更なる意欲向上を目的とするものです。

Dean's List(学業)は、学業成績(GPA)に基づき、各学年30名程度を選出します。

Dean's List(スポーツ)および(文化)は、スポーツ活動や文化芸術活動等において、個人や団体の構成員として残した顕著な成果に基づき選考します(例年1月に当該年度の業績・成果の申請を受け付けます)。選考基準は、全国大会・コンテスト等では入賞以上、国際大会・コンテスト等では出場以上を目安とします。

2025年度は、Dean's List [学業]102名、[スポーツ]2名、[文化]3名の受賞者に表彰状を授与し、輝かしい成果を称えました。皆さん、ぜひDean's Listの表彰を目指して、学業・スポーツ・文化芸術活動等に勤しみ、商学部で充実した学生生活を過ごしてください。



News 3

Global Management Program (GMP) に参加しませんか



Global Management Program(GMP)は、商学部の学生を「グローバル・ビジネス・リーダー」に育てるプログラムです。

今の時代は、地球／世界レベルはもちろん、国内においてもグローバルな知識・経験・能力を持ったリーダーが求められています。地球上のどこにいても、力強く、堂々と、しなやかに生きていく、そして自分の周りの世の中に貢献していく、GMPはそんなリーダーを育てたいと考えています。

現在、商学部の3・4年生の120名以上がGMPに参加して自らを成長させています。

GMPの内容は？

GMPでは、学生たちの資質・能力を高めるため、次のようなプログラムを用意しています。

1 GMPゼミ

GMPゼミは、まさにGMPの学習の中心です。GMPゼミには、経営、国際ビジネス、会計、ファイナンス、保険、経済史・経営史、公共政策等のゼミがあります。それぞれのゼミでは、国際経験が豊富な教員のアドバイスを受けて、ビジネス・社会における課題の発見と問題の解決に取り組みます。そして学生は、このゼミでの学習を通じて、思考力、分析力、情報収集能力、世界に通用するプレゼンテーション力・ディスカッション力・ライティング力を高めることができます。さらにはGMPゼミというコミュニティにおいて、グローバルな人間力・リーダーシップ力を身に付けることとなります。



GMPゼミでのプレゼンテーションとディスカッションの様子

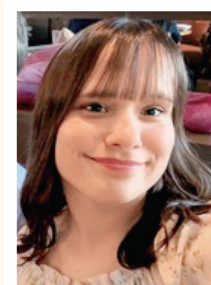
2 GMPコア科目、英語教育

商学部の授業の多くは日本語で行われていますが、GMPでは英語で行われるビジネスの授業(GMPコア科目)を5科目以上履修します。その際には、皆さんが1・2年生の英語の授業で学習したことが大いに役立つこととなります。GMPコア科目を履修すると、世界のビジネス・経済・社会・文化に関する知識が英語で頭に入るので、皆さんが卒業後、日本語だけではなく英語でも人と話ができる、ビジネスを行える、ということにつながります。

GMP学生の声

■ 梁取ゼミ

バッシュツカヤ ミラーナ



GMPでは、これまで挑戦できなかったような経験を数多く積むことで、自分の視野が大きく広がりました。例えば、シンガポールでのケーススタディ・コンペやHSBCのビジネスコンペでは、プレッシャーの中に身を置くことで大きく成長することができました。また夏の韓国合宿では、現地の学生の多様な考え方に触れたり、現地企業の訪問を通して、グローバルなビジネスについて理解を深め、将来を深く考えるきっかけにもなりました。

コア科目では、多くの留学生との英語ディスカッションの中で、最初は意見を英語でうまく伝えることができず議論についていくことに精一杯でしたが、徐々に英語で論理的に考えを伝える力が身につきました。

GMPは想像以上に多くの出会いや経験をえられる場所です。ここでの経験によって以前よりも失敗を恐れずに挑戦できるようになり、もっと成長していきたいです。

3 GMP Learning Opportunities

GMPには、皆さんを成長させる様々な学習機会(Learning Opportunities)があります。それらはいずれも、単に知的能力を高めるだけでなく、皆さんのグローバルな人間力、リーダーシップ力を高める場となります。

1 GMPフォーラム

ゼミや学年の壁を越え、GMP生が互いに刺激を与え合いながら学ぶ場として、GMPでは年間を通じて「GMPフォーラム」を開催しています。2025年度は全6回のフォーラムを実施し、企業との特別講義、ケースコンペティション、未来創造ワークショップ、学生研究成果発表会など、多彩なテーマに挑戦しました。フォーラムでは、学生自身が「考え、議論し、発信する」ことが求められます。例えば、海外市場への進出戦略や新製品のグローバル展開といった実際の課題に対し、ゼミ横断チームで議論を重ね、英語でプレゼンテーションを行います。限られた時間内の仮説立てと資料作成、本番での鋭い質問に対する応答は、まさに実践型の学びです。また、シンガポール国立大学の教員による意思決定論・行動経済学の特別講義や、株式会社電通との「未来学」ワークショップも開催されました。英語力や論理的思考力はもちろん、「自ら挑戦し、未来を創る力」の実践を通じて磨くことができるのがGMPフォーラムの魅力です。



第4回 GMPフォーラムの様子

2 学生研究成果発表会

GMPの一大イベントが、「学生研究成果発表会」です。2025年度は、各ゼミの代表たちが、2年間かけて取り組んできた卒業研究の成果を英語で発表しました。会場には教員や企業・社会人ゲストの方々も来場し、学生たちは研究者として、自らの問いや分析結果を社会に向けて発信しました。質疑応答では、教員や来賓からの鋭い質問にも柔軟に対応し、自身の研究への深い理解を示していました。一方、ポスタープレゼンテーションでは複数名の学生が発表し、研究テーマや分析手法の違いから、各ゼミの専門性や個性が色濃く表れる場となりました。最後に、「教授賞」「来賓賞」「オーディエンス賞(学生賞)」が発表され、複数の研究が見事に受賞しました。



オーラル・プレゼンテーション



ポスター・プレゼンテーション

3 GMPキャリアフォーラム

GMPの学生が将来のキャリアを考える機会として開催しています。商学部のOB/OG約10名にお越しいただき、それぞれのキャリアをお話いただいた後、OB/OGと学生でグループディスカッションを行います。様々な国・業種・職種で大活躍されているOB/OGから親身になったキャリア・アドバイスを受けられます。

[2025年6月と10月に行われたGMPキャリアフォーラムにお越しいただいたOB/OGの勤務先(例)] アマゾンジャパン合同会社、PwCアドバイザリー、デロイト・トーマツ・コンサルティング、三井住友銀行、みずほ銀行、クレディ・アグリコル銀行、東京海上日動火災保険、三井住友海上火災保険、伊藤忠商事、Grand Central、山梨県議会議員など



OBを囲んで

4 海外での学習

GMPの学びは、早稲田キャンパスの中だけにとどまりません。学生たちは海外に飛び出し、世界の学生や企業と直接交流しながら、グローバルな知識・経験・実践力を磨いています。2025年度は、韓国・ソウルの成均館大学(Sungkyunkwan University)を主な訪問先として海外合宿を実施しました。現地では、成均館大学での特別講義や学生交流イベントに参加したほか、Samsung Innovation Museumの訪問、ソウル稲門会との「GMPキャリアフォーラム in ソウル」など、多面的な学習機会を経験しました。さらに、韓国を代表する企業を訪問し、学生たちは実際の経営課題に対する戦略提案を英語でプレゼンテーションしました。現場のプロフェッショナルから直接フィードバックを受けることで、グローバルビジネスのリアルや、理論と実務の違いを体感する貴重な機会となりました。

また、GMPでは、世界レベルのケースコンペティションにも積極的に挑戦しています。2025年には、HSBCグループ主催の「HSBC/HKU Business Case Competition」の日本予選が、初めて早稲田大学で開催されました。GMPから2チームが出場し、他大学の学生たちとともに、限られた時間の中で企業戦略を立案し、英語でプレゼンテーションを行いました。準決勝では香港の老舗企業の持続可能な成長戦略、決勝では「淡路島を世界で最も過ごしやすい島にするには」という社会課題型テーマに挑戦し、創造力・論理的思考力・チームワークを発揮しました。その結果、早稲田大学チームは2位・3位に入賞し、全国レベルの舞台で高い実力を示しました。



海外合宿韓国



BFI Case Jam
出場チームメンバー




HSBC-Waseda Japan Business Case
コンペティション決勝で発表する早稲田チーム

GMPに参加するには?

GMPに興味がある学生は、GMPウェブサイト、GMP Annual Report をご確認ください。

[GMPウェブサイト] <https://www.waseda.jp/fcom/soc/students/gmp>

[GMP Annual Report] <https://www.waseda.jp/fcom/soc/assets/uploads/2026/02/616a48dc2731a295af060c1ffe38d2b5.pdf> (学部webサイトより)

GMPに参加するには、3年生からGMPゼミに所属することが必要です。GMPゼミに入り次第、GMPの学生となります。GMPゼミは、後の専門ゼミ紹介のページに  のマークがついています。

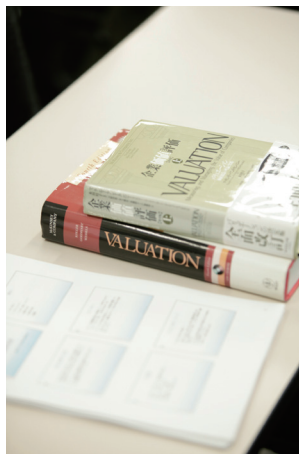


GMP
ウェブサイト



GMP
Annual Report

専門ゼミとは



- 専門教育科目演習(ゼミ)では、担当教員の指導のもと、設定したテーマについて調査・資料収集をして、レポートやプレゼンテーション資料を作成し、それをもとに他の学生と討論する形式をとります。通常の授業とは異なり、少人数制で2年間継続して履修することが前提です。
- ゼミの活動を通じて、将来の実務で必要となる課題設定および課題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、文章作成能力を養います。また、合宿や懇親会など、担当教員や他の学生と交流する機会も得られます。
- 商学部には2026年度現在、6トラック(経営、会計、マーケティング、ファイナンス、保険・リスクマネジメント、ビジネスエコノミクス)と「総合・学際科目分野」のゼミが70以上設置されています。
- ゼミは、以下の通り、半期の専門教育科目演習(ゼミ)と専門教育科目演習論文(ゼミ論文)から構成されます。

| | | 履修学年 | 単位数 |
|----------|------------|------|-----|
| 専門教育科目演習 | 専門教育科目演習ⅠA | 3年生 | 2単位 |
| | 専門教育科目演習ⅠB | 3年生 | 2単位 |
| | 専門教育科目演習ⅡA | 4年生 | 2単位 |
| | 専門教育科目演習ⅡB | 4年生 | 2単位 |
| | 専門教育科目演習論文 | 4年生 | 4単位 |

◆ 選考までのステップ

| | |
|--------------|--|
| STEP1 | 説明会への参加 |
| ↓ | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 興味のあるゼミの説明会に参加し、ゼミの内容や講義の進め方、研究テーマ等の情報を収集する。 ✓ 説明会は、9月上旬ごろ実施。 |
| STEP2 | 応募 |
| ↓ | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 収集した情報を踏まえ、MyWasedaから「応募ゼミ申請」を行う。 ✓ Webでの「応募ゼミ申請」と併せて、応募書類を提出する。 ✓ 1次選考の応募書類提出は、9月上旬～中旬ごろ実施。 |
| STEP3 | 選考試験 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 応募ゼミの選考日、選考場所等を確認し、選考試験を受ける(レポート課題のみの場合もあり)。 ✓ 1次選考は、9月中旬～下旬ごろ実施。 |

※選考ステップ変更の可能性がありますので、最新情報は商学部HP「ゼミ選考」にて確認してください。

特集



掲載は科目配当順

専門ゼミ目次

2027年度開講ゼミの募集有無については、商学部ホームページを確認してください。

●経営トラック

| | | |
|-----------------------------------|----------|----|
| 組織と戦略 | 藤田 誠 | 07 |
| ビジネスモデルと競争戦略 | 井上 達彦 | 07 |
| 企業法研究 | 和田 宗久 | 07 |
| 経営戦略研究 | 山野井順一 | 07 |
| Organizational Behavior | 村瀬 俊朗 | 08 |
| Contemporary Strategic Management | マレン ジョエル | 08 |
| 応用組織論研究 | 三橋 平 | 08 |
| Managing Human Resources | 梁取 美夫 | 08 |
| 民法研究 | 新井 剛 | 09 |
| イノベーション研究 | 清水 洋 | 09 |
| グローバル経営 | 谷口 真美 | 09 |

●会計トラック

| | | |
|-----------------------------------|--------|----|
| 現代管理会計論 | 長谷川恵一 | 09 |
| 現代の財務会計 | 川村 義則 | - |
| 財務報告と分析 | 奥村 雅史 | 10 |
| 企業価値評価研究 | 大鹿 智基 | 10 |
| 財務報告の研究 | 山内 暁 | 10 |
| 財務会計研究 | 八重倉 孝 | 10 |
| Accounting, Economics and Society | スズキ トモ | 11 |
| 会計・監査実務研究 | 関根 愛子 | 11 |
| 組織のデザインと管理会計研究 | 若林 利明 | 11 |
| 会計・ファイナンス・コーポレートガバナンス | 河内山拓磨 | 11 |

●マーケティングトラック

| | | |
|------------------------------|-----------|----|
| 現代マーケティング研究 | 恩蔵 直人 | 12 |
| マーケティング・サイエンス研究(2027年3月退職予定) | 守口 剛 | 12 |
| 消費者心理学研究 | 須永 努 | 12 |
| Consumer Behavior Research | フランク ビョーン | - |
| マーケティング・コミュニケーション研究 | 石井 裕明 | 12 |
| マーケティング・マネジメント研究 | 外川 拓 | 13 |

●ファイナストラック

| | | |
|--|-------|----|
| The World's Corporations in a Globalized Society | 広田 真一 | 13 |
| コーポレート・ファイナンス | 谷川 寧彦 | 13 |
| フィナンシャル・エコノミクス | 尾崎 祐介 | 13 |
| フィナンシャル・インベストメント | 片桐 満 | 14 |

●保険・リスクマネジメントトラック

| | | |
|--|-------|----|
| リスクマネジメント研究 | 李 洪茂 | 14 |
| Study of Insurance from a Global Perspective | 中出 哲 | 14 |
| 保険経営と数理 | 星野 明雄 | 14 |
| 保険法研究 | 中村 信男 | 15 |
| 貿易商務研究 | 田口 尚志 | 15 |
| Study of International Trade Risk Management | 任 素英 | 15 |

●ビジネスエコノミクストラック

| | | |
|--|-------|----|
| マクロ経済理論 | 片岡 孝夫 | 15 |
| 開発経済学研究 | 高瀬 浩一 | 16 |
| コンピュータによる統計分析とその応用 | 坂野 慎哉 | 16 |
| 企業の経済学 | 久保 克行 | 16 |
| 計量経済学とその応用 | 片山 東 | 16 |
| 産業組織論研究 | 加納 和子 | 17 |
| Empirical Study of Policy Evaluation | 富 蓉 | 17 |
| 数理経済学研究 | 原 和弘 | 17 |
| 国際経済学研究 | 横山 将義 | 17 |
| 国際経済関係研究(2027年3月退職予定) | 池尾 愛子 | 18 |
| Economic and Business History: Global Perspectives | 矢後 和彦 | 18 |
| 雇用労働研究 | 小倉 一哉 | 18 |
| 産業・企業ダイナミクス研究 | 宮川 大介 | 18 |
| 国際貿易と経済学 | 市田 敏啓 | 19 |
| 国際貿易研究 | 横田 一彦 | 19 |
| 日本経済史・経営史 | 結城 武延 | 19 |

●総合・学際科目分野

| | | |
|-------------------------------------|-----------------|----|
| 西洋哲学史理論研究 | 辻内 宣博 | 19 |
| トポロジー理論研究 | 安原 晃 | 20 |
| 力学系理論研究 | 渡邊 展也 | 20 |
| 幾何学理論研究 | 山口 祥司 | 20 |
| Second Language Acquisition | 浅利 庸子 | - |
| 英語コミュニケーション研究 | 佐藤 詩恵 | 20 |
| 音声学・音韻論研究 | 篠原 靖明 | 21 |
| スピーチアクト&ポライトネス研究 | 鈴木 利彦 | 21 |
| SDGs実践プロジェクト(上級英語)研究 バウワー ジャック ビクター | | 21 |
| 英語辞書と出版 | 山田 茂 | 21 |
| ドイツ文化研究 | クラウス マヌエル フィリップ | 22 |
| メディア文化研究 | 柳橋 大輔 | 22 |
| フランス映画研究 | M. M. パルヴェーレスコ | 22 |
| スペイン地域研究 | ロベスハラ サンティアゴ | 22 |
| 東アジア文化研究 | 小川 利康 | 23 |
| 中国語圏の歴史とアイデンティティ | 中村みどり | 23 |

●経営トラック

●会計トラック

●マーケティングトラック

●ファイナストラック

●保険・リスクマネジメントトラック

●ビジネスエコノミクストラック

●総合・学際科目分野

組織と戦略

藤田 誠



■ 研究テーマ

経営学に関するテーマを幅広く扱います。経営戦略、組織構造をはじめ、コーポレート・ガバナンス、リーダーシップ、モチベーションなどに関するテーマも取り上げます。ゼミ論文作成に際しては、各人（各グループ）の興味を尊重します。

■ 活動内容

春学期は、教材を指定して輪読形式で実施します。秋学期は、グループでのゼミ論文作成と慶應義塾大学商学部小沢ゼミとのインゼミでの発表・討論がメインの活動になります。また、論文作成のため、統計に関する学習、統計ソフトの使い方なども学習します。

■ 新ゼミ生へ

ゼミは、各人の主体的な行動が期待されるという点をよく認識してください。

ゼミ Instagram アカウント:

https://www.instagram.com/fujita_zemi

人数：3年生 15人、4年生 15人 執筆：稲葉 諒

ビジネスモデルと競争戦略

井上 達彦



■ 研究テーマ

「成功した企業」と聞いてどんな企業を思い浮かべますか？いわゆるGAFAYやAirbnbなどでしょうか。いずれの企業もサービスやアイデアは秀逸です。しかし、それだけでは「勝ち続ける」ことはできません。井上ゼミでは「ビジネスモデルと競争戦略」をテーマに、企業が成功し、勝ち続けるための裏側の目に見えない仕組みを研究し、明らかにしていきます。

■ 活動内容

井上ゼミでは、特定の企業のビジネスモデル分析から活動をスタートし、「ビジネスモデル研究・教育の起点をつくる」ことを目指して、実務界にも認められる研究成果の創出に取り組んでいます。ゼミでは、座学によって理論を学び、自ら問いを立てたうえで、フィールドワークを通じてその答えを導き出すといった「理論と実践」の組み合わせにより学びを深めています。

■ 新ゼミ生へ

私たちのモットーは「考動する知識人」です。机の前で「学」ぶだけでなく、外に飛び出し、自ら問いを立て、考動しながら「学」ぶことを心がけています。この motto に共感し、自身もそうした力を育みたいと強く思うみなさま、ぜひ井上ゼミと一緒に理論と実践による学びを体験しませんか？

ゼミ HP: <https://sem-inoue.waseda.jp>

人数：3年生 11人、4年生 6人 執筆：多田 美月

企業法研究

和田 宗久



■ 研究テーマ

和田ゼミでは企業法を研究テーマにしています。企業法ってなに？という方が多いかもしれませんが会社は企業法の枠組みで成立しており実は我々にとって馴染みの深いテーマです。具体的には M&A やコーポレートガバナンスなど法律的な視点から様々な問題を深掘りして研究しています。

■ 活動内容

企業法に関連した研究課題を3-4人のグループで文献や判例を用いて発表を行います。研究を進める過程で法制度や企業づくりの曖昧な部分を指摘し解決策を考え理解を深めることを目的に取り組んでいます。3.4年生と一緒に活動するので法律科目に不安があっても徐々に理解を深めていけるので大丈夫です！

■ 新ゼミ生へ

和田ゼミは商学部では稀な法律を扱っているゼミなので最初のうちは理解に苦労することもあるかもしれませんが、幅広い分野の資料を活用するのでその過程で社会の動きを包括的に理解できる点は非常に魅力的です。みなさんのご参加をお待ちしております！

人数：3年生 5人、4年生 7人 執筆：芝本 泰知

経営戦略研究

山野井 順一



■ 研究テーマ

3年前期には「世界標準の経営理論」と英語の論文を用い、ゼミ生とディスカッションを通して、経営理論について幅広く学びます。その後、メイン活動となるグループ・プロジェクトに入ります。ここでは、グループごとにテーマ設定、先行研究調査、データ収集・分析を行います。ここでの目標は、プロジェクトの成果としての論文を

学内外の懸賞論文コンテストに出し、一等を取ることです。

■ 活動内容

私たちは、経営戦略に関する事例を定量的に分析し研究しています。ゼミでは様々な企業事例から経営戦略の理論に基づいて因果関係を導き、仮説を立て、統計を用いて検証します。これらの活動を通して、経営理論や統計学、語学、論理的思考力を体得することを目指

します。

■ 新ゼミ生へ

山野井ゼミでは、経営理論のみならず統計や英語論文、企業事例などを広く扱うとともに、論理的思考も求められます。よって向学心と多少の忍耐力が必要となります。将来役立つスキルを身に付けるために真剣に活動したい学生には、ぴったりのゼミです。ゼミ生一同、皆さんの参加を心待ちにしています。

人数：3年生 10人、4年生 7人 執筆：宮田 結衣

Organizational Behavior

村瀬 俊朗

■ 研究テーマ

リーダーシップ、チームワーク、モチベーション、職務満足など、様々な組織の「人」に関するテーマを研究するゼミです。主に2人や3人一組の班を組んで、学生主導で課題や研究を行います。「どんなリーダーシップがチームワークに必要か」「モチベーションはなぜ高まらないのか」など、みなさんも過去に一度は疑問に持ったことがあるのではないのでしょうか。村瀬ゼミでは、

これらの身近にある「人」の疑問に着目して仮説を練り、データ検証を通して、自分達の解を見つけます。

■ 活動内容

ゼミでは、「輪読とリサーチプロジェクト」を中心に活動します。3年生では、並履修科目の組織行動論とゼミのレクチャーを通して組織の人にまつわる基礎知識を身に付けてもらいます。プロジェクトは、企業との合同もあれば、ゼミ内のみでの活動の場合もあります。

プロジェクトを通して、チームメンバーとテーマを議論し、データ分析を行い、自らの解が正しいかを検証し、結果をゼミ内や企業の方々に発表します。ゼミの2年間にいくつかのチームプロジェクトを行い、4年生の最後に総仕上げとしてグループで卒業論文に取り組みすることで、「自らの頭で考え、議論し、行動できる」人材へ成長してもらうことが、ゼミの目標です。

■ 新ゼミ生へ

村瀬ゼミの目標は早稲田大学でユニークなゼミを作ることです。ゼミで研究に真剣に取り組み、加えて「work hard & play hard」の精神で学生生活を送りたい方々の応募をお待ちしています。

人数：3年生 14人、4年生 14人 執筆：村瀬 俊朗先生

Contemporary Strategic Management

マレン ジョエル



■ 研究テーマ

This zemi focuses on developing skills for modeling and understanding the contexts in which modern business must operate. The complexity of the modern world means that effective business strategy must be a dynamic and evolving process that adapts to a changing business landscape. To address these challenges, managers must be able to identify causes and consequences of important change in both

the market and non-market environments of the firm.

■ 活動内容

The zemi focuses on the use of agent-based modeling and computational simulation to identify and understand the relevant factors influencing the coevolution of business and context. We also apply data analysis methods using the R programming language. Regarding content, we pay attention to reciprocal

relations between business and the natural environment. However, what we learn is useful across strategic management issues.

■ 新ゼミ生へ

Successful companies design strategies that leverage broader changes taking place in the world to innovate and remain competitive. Students will learn to recognize and respond to these complex issues by exploring how business influences society and society influences business.

人数：3年生 5人、4年生 3人 執筆：MALEN JOEL 先生

応用組織論研究

三橋 平



■ 研究テーマ

経営学、組織科学、経営組織論分野のゼミです。組織や、組織内の人材が、時代をリードし、変化に適応し、新しい価値を生み続けるためのメカニズムを実証的に研究することを目的としています。卒業研究のテーマは、就職や映画のデータを用いた研究、オンライン・ゲーム・サイ

トなどのレビュー・コメント分析、イノベティブな水着の特許分析、テニスのホーム・ゲームでの勝率データなど、自分の関心に沿いながら、正確な論証と実証に基づく卒業研究ができるようサポートしています。

■ 活動内容

ともかく楽しく、笑顔で、毎週のゼミが待ち遠しくなるように

運営しています。3・4年生合同のゼミで、和気あいあいと学び合えるのが大きな特徴です。

■ 新ゼミ生へ

大学時代に自分の将来に影響を与えるような出会いに恵まれることを願っています。

人数：3年生 5人、4年生 2人 執筆：三橋 平先生

Managing Human Resources

梁取 美夫



■ Theme

How do organizations manage people effectively—and why does it matter? In this group, we explore how companies design and implement human resource practices such as recruitment, selection, and compensation to achieve their goals. Our interests extend beyond national borders, examining the practices adopted by organizations around the world.

■ Activities

Our activities are designed to balance academic rigor with practical relevance. Through the program, students will develop the ability to (1) read and critically evaluate academic research articles, (2) apply research insights to real-world organizational challenges, (3) design and conduct research on their own business-related questions, and (4) communicate their

findings clearly to both academic and practitioner audiences.

■ Message

HR (Human Resources) を約してこう呼びます)とは組織におけるヒトのマネジメントです。このトピックについて深く学びたい学生、将来HRの仕事に就きたい学生、ゼミやGMPの活動を通して自分を高めたいと考えている学生と一緒に学びたいと考えています。ゼミでは英語と日本語を併用します。

人数：3年生 16人 (4名留学中)、4年生 8人 執筆：梁取 美夫先生

● 経営トピック

● 会計トピック

● マーケティングトピック

● ファイナンストピック

● 保険・リスクマネジメントトピック

● ビジネスエコノミクストピック

● 総合・学際科目分野

民法研究

新井 剛



■ 研究テーマ

新井ゼミでは、社会の礎ともいえる民法を研究します。民法は一般市民のための法律であり、私たち

にとって最も身近で重要な内容です。私人間のトラブル解決に役立つだけでなく、今日のビジネスで重要なコンプライアンスの意義も

深く学べます。

■ 活動内容

①民法の構造を理解した上で、近年相次いでいる民法改正の内容や背景等を学びます。②実務への影響が大きい最高裁判所による「判例」の内容や意義を皆で検討します。③法律問題をテーマとするシネマの鑑賞を通して、日本の法制度の問題点を考察します。

■ 新ゼミ生へ

主体性を持って研究に取り組み、就活や公務員試験の準備、体育会、サークル等との両立がしやすいゼミです。ゼミ生同士の仲が良く、大変雰囲気が良いです。教授の、民法を解説する際の表情のギャップが魅力です！私たちと楽しく民法を学びましょう！！

人数：3年生 18人、4年生 18人 執筆：茨木 琉之介、関戸 瞳、寺島 沙恵

イノベーション研究

清水 洋



■ 研究テーマ

イノベーションを企業の競争戦略や組織構造、産業組織の観点から歴史的に分析しています。大きくは、(1) イノベーションにはどのようなパターンがあるのか、(2) イノベーションのパターンに影響を与えるのはどのような要因があるのか、(3) 企業はイノベーションのパターンをどのように戦略的に活用できるのかの3点を中心に

分析をしています。

■ 活動内容

ケースや論文、書籍などを読むとともに、実際に分析や提案を行っています。とにかく巨人の肩のぼります。OB,OGとのコミュニティも大切にしています。

■ 新ゼミ生へ

2019年から開講した新しいゼミです。これからどのようなゼミになっていくのか楽しみです。やる

ことは多いとは思いますが、それだけ得るものも多いはず。案をしたい人はぜひ遠慮してください。せっかく大学にきたのだから、ゼミに入って勉強した方がいいよ。できるだけ濃い議論をと思っているので、人数は8~10人程度と絞っています。

<https://sites.google.com/site/hiroshishimizu529/introduction>

人数：3年生 10人、4年生 10人 執筆：清水 洋先生

グローバル経営

谷口 真美



■ 研究テーマ

グローバル経営、ダイバシティ・マネジメント

■ 活動内容

企業が国境を越える経営活動を、戦略論と組織論の観点から学びます。特に、人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出して企業価値向上につなげる人的資本経営が注目されているなか、ダイバシティという人的資本をマネジメントする「ダイバシティ・マネジメント」の観点から調査・分析・考察を行います。具体的

な活動として、1.最新の論文についての議論、2.海外大学の学生との議論・交流(昨年度はイギリスCranfield大学のEMBA生と議論・交流を実施)、3.特定企業についての研究発表会(昨年度は伊藤忠商事、オムロン、MSD、住友電工、MDC様にご参加いただきました)、4.海外企業を訪問し、工場など施設見学およびインタビュー調査を実施し、学術と経営の実践の両面から学びます。(昨年度はベトナムでJETRO、新日鐵、TOTO、住友電工、ニトリを訪問

し、今年度は台湾での研修を予定しています。)卒業生の進路は、住友商事、丸紅、三菱商事、ソニー、IBM、アサヒビール、アクセンチュア、メガバンクなど、卒業生との繋がりが魅力です。

■ 新ゼミ生へ

主体的にゼミ活動に取り組み、多様な人々との交流を通して新しい価値観を学び、議論を活性化し結論を導く力を身に付け、グローバルリーダーとして活躍したい方の応募を期待しています。

人数：3年生 6人(うち1人留学中)、4年生 7人 執筆：山口 航世

現代管理会計論

長谷川 恵一



■ 研究テーマ

企業の意思決定や業績管理等に用いられる「管理会計」を中心とした研究を行っています。管理会計論は経理・会計の範囲のみならず経営戦略・マーケティングなどの分野とも密接に関わっているため、自身の興味に合わせて幅広い分野の研究に挑戦できます。

■ 活動内容

ゼミ内定後に、管理会計とプレゼンの基礎知識を身に付けるため、2年生の

秋学期に4年生指導のもと「メンターゼミ」を行います。3年生春学期には、仮想企業を運営し、会計や経営戦略が業績に与える影響を体験する「ビジネスゲーム」を行い、勝敗結果の要因を分析します。秋学期はグループに分かれて研究を行い、他大学との合同研究発表会「インゼミ」を行います。4年生は卒業論文作成が中心です。また、年に2回(春と夏)に合宿を行っています。30年の歴史をもつ当ゼミでは、

OBOGとの交流も盛んで、就活やインターンシップなどについて卒業生が相談に乗ってくれます！

■ 新ゼミ生へ

当ゼミは学びの場・交流の場として価値のある環境です。当ゼミ生同士の交流は勿論、他のゼミ生や社会の様々な領域で活躍している卒業生と交流する機会も多いです。一緒に素敵な時間を作っていきましょう！31期生となる皆さんの参加を待っています！

人数：3年生 17人、4年生 18人 執筆：長谷川 恵一先生

財務報告と分析

奥村 雅史



■ 研究テーマ

本ゼミでは、企業情報の中で中核的存在である財務情報について、その有用性を多角的に検討します。とくに財務会計の機能(意思決定支援機能や契約支援機能)について理論的に理解するとともに、財務データや株価データを分析することを通じて、その実際の状況を検討します。実習によって必要となる分析スキルを身に付けながら、専門知識を深めることを目指します。なお、財務情報を補完する人的資本情報や

ESG 情報など、近年開示が進んだ非財務情報についても研究の対象となります。

■ 活動内容

3年生は、専門性の高いテキストと関連する文献の輪読によって財務会計の機能を深く理解し、関連する事象についてPCによるデータ分析を行います(ゼミはPC教室で実施予定)。また、サブゼミを利用して日経 STOCK リーグに参加します。そこでは、サブゼミに加えて4年との合同ゼミでアドバイスを受けながら企業分析レポート

を作成することによって、投資テーマを実現する株式投資案を提案します(昨年度は本ゼミから参加した3チーム中2チームが入選、うち1チームが入賞(敢闘賞))。4年生は卒業論文の作成がメインとなりますが、並行して幅広い分野の文献を輪読します。なお、合宿、企業等の見学、OB・OG会、他ゼミと合同のインターゼミを行います。

■ 新ゼミ生へ

当ゼミの活動に興味があればPC初心者でも大丈夫。

人数:3年生17人、4年生15人 執筆者:ゼミ生一同および教員

企業価値評価研究

大鹿 智基



■ 研究テーマ

このゼミでは企業価値評価という分野について学びます。企業価値評価は、財務諸表を読み解く会計の知識に加えてマーケティング戦略への理解、経済学を利用した市場動向の把握などの商学にまつわる分野と、政治の動向や環境問題などの商学以外の分野から、企業の将来性を幅広い視野で見ることが出来る学問です。この分野で使われる知識はM&Aや株式投資、企業の課題解決など、様々な戦略的判断を下す際にも活用されています。

■ 活動内容

活動内容は毎年異なりますが、今年度春学期の活動の1つに輪読があります。輪読では文章の内容をまとめて発表する報告と、論点を探して議論を行う討論を行います。報告では表現力、討論では考察力を身につけることを目標としています。また秋学期には発想力と論理的な文章を書く能力を身につけるために、論文を執筆します。その他にもゼミ生同士の仲を深めるために、月一企画や年一企画という交流イベントを企画しています。加えて他大学との合同ゼミ合宿ではビジ

ネスゲームを行うため、ゼミ生以外も交流しながら学ぶ機会があります。

■ 新ゼミ生へ

このゼミでは会計の知識を応用するだけではなく、企業価値評価という研究テーマで様々な学問を融合して学びます。また毎年ゼミの目標を自分たちの代で設定し、それに沿った活動内容を決定するため、自由度が高いです。積極的に行動できる主体性のある人、責任感があり、継続して物事に取り組める人をお待ちしています!ぜひ私たちのゼミと一緒に活動しましょう!

人数:3年生6人、4年生1人 執筆者:ゼミ生一同

財務報告の研究

山内 暁



■ 研究テーマ

会計を中心としつつ、他分野(マーケティング・経営戦略など)と融合させて学びます。

社会に出てから会計を学び直す人は多いでしょう。「会計がわからなければ真の経営者になれない」(稲盛和夫)という言葉が表すように、会計リテラシーはビジネスに必要不可欠です。なぜなら、会計がビジネス活動を表すストラクチャーであり、ビジネスの共通言語であるためです。ビジネスの共通言語である会計は、社会に出てからの強い武器となるでしょう。なかには「会計は味気ない」と感じる人もいるかもしれませんが。そう感じる

のは、会計を単独でみているためかもしれません。しかし実は、会計は他分野と切っても切り離せないものです。それらを一体として学べば、会計が面白くなります。私達は、知識の丸暗記などではなく、生きた会計と戦略思考を学びます。

■ 活動内容

●3年前期:輪読(会計ファイナンス等を扱う教科書を使用)、5分間プレゼン
●3年後期:インターゼミ(知識を実践)、5分間プレゼン

●4年:卒論執筆

■ 新ゼミ生へ

●どのような方におすすめ?

- ・会計と他分野を融合させて学びたい方
- ・資格勉強などと両立したい方
- ・ゼミを楽しみ、生涯の思い出を作りたい方

X: @yamauchi_zemi (右上 QR コード)

Instagram: @yamauchi_zemi15

(https://www.instagram.com/yamauchi_zemi15?igsh=ZmtuaTBtZHExcWt3)



人数:3年生20人、4年生20人 執筆者:ゼミ生一同(代表 樋口 大和)

財務会計研究

八重倉 孝

■ 研究テーマ

国際分野を中心とした財務会計の理論について体系的に学び、会計情報の作成者や利用者の視点から分析を行います。また、会計情報が市場に与える影響などを経済学や統計学の視点を織り交ぜ、実証的分析を試みます。

■ 活動内容

3年前前半は財務会計の応用書を扱

い、個々のトピックについてプレゼンや議論を行います。並行して論文作成やプレゼンの技術を学びます。後半にはより発展した議論を応用書を用いて行い、グループでの論文作成を行います。4年では主に個人の卒業論文作成に取り組めます。また、夏合宿や、東京証券取引所・日本銀行等の見学を行います。

■ 新ゼミ生へ

本ゼミはゼミ生が主体となり、先生と協力して運営しているのが特徴です。新しいゼミならではの自由で柔軟な活動ができます。ゼミで得られたさまざまな知識と経験は卒業後も必ず大きな力になると思います。財務会計学に興味がある人や、学問を学ぶ上で論理的に考えるのが好きな人、その力をつ

けたいと考えている人は、ぜひ私たちのゼミと一緒に学びましょう。(なお、担当教員が2026年に特別研究期間から帰国するため、2027年度は3年生のみのゼミになる予定です)。

人数:3年生0人、4年生0人 執筆者:八重倉 孝先生

● 経営トピック

● 会計トピック

● マーケティングトピック

● ファイナンストピック

● 保険・リスクマネジメントトピック

● ビジネスエコノミクストピック

● 総合・学際科目分野

● 経営トラック
● 会計トラック
● マーケティング
● ファイナンス
● 保険・リスク
● マネジメントトラック
● ビジネス
● エコノミクストラック
● 総合・学際科目分野

Accounting, Economics and Society

スズキ トモ



■ 研究テーマ
「Account-ing (説明+行為)」による新しい Socio-Economy の構築を共通のテーマとし、国内外の経営、経済、サステナ政策に関して幅広くデータ作成、理論構築、政策提言、実装に貢献しています。岸田政権の「新しい資本主義」以降、高市政権下のコーポレートガバナンス改革まで、弊

研究室のデータや提言が多
用されています。国際的には
TISFD (不平等・社会問題財
務報告タスクフォース) で中
心的役割を果たしています。

■ 活動内容
研究員は自主的にテーマを
開発し追求します。「付加価
値の適正分配・投資経営 (DS
経営)」や TISFD の推進に
携わる場合には、学生とし

てよりは、関係、企業役員、
国際機関理事等と直接的に
協働する研究員として活躍
します。

■ 新ゼミ生へ
詳しくは写真中の QR コード
で。社会課題解決型のビジ
ネスや研究に携わることは
自身の遣り甲斐やプライド
や Well-being につながりま
す。一緒に。

人数：3年生8人、4年生6人 執筆者：研究員一同

会計・監査実務研究

関根 愛子



■ 研究テーマ
実務に直結した学問である会計や監査を将来活かしていくために、授業で学んだ基本的な内容や考え方を踏まえ、どのように実務で使われているのかを知り、どのように使われるべきかを考え、議論していきます。

■ 活動内容
会計や監査は国際的に標準化しているものの、実際のビジネスは一律ではありません。そのため、会計処理や監査の業務には常に判断が付きものであり、それをコミュニケーションしていくことが重要です。本ゼミにおいては、実際のビジネスや実務を踏まえた生きた議論を行い、どのように対応していくべきかを考えていきます。具体的なイメージを持つための企業等への訪問も積極的に行っています。また、3・4年合同での夏合宿や年二回ほど企業訪問を行っています。

■ 新ゼミ生へ
「会計」「監査」と聞くと機械的に当てはめるだけ、地味といったイメージがあるかもしれませんが、実際には、従うべき基準を作るにも様々な背景があり、基準に従って処理するのも企業のビジネスをどうみていくかで議論が分かれるものであり、実務はとて奥深いものです。担当教員のこれまでの実務経験を通じて得た様々な会計や監査の実務を学び、メンバーで議論できるこのゼミは、基礎を学んだものの、なぜそうなっているか、実務はどのように動いているか気になる方に適しています。皆さんの積極的な参加を心からお待ちしております。

人数：3年生22人、4年生20人 執筆者：ゼミ生一同・教員

組織のデザインと管理会計研究

若林 利明



■ 研究テーマ
経営組織や経営戦略のデザインに管理会計システムが果たす役割を学びます。組織目的達成のためには、①誰が意思決定を行い、②いかに業績(成果)を測定し、③いかに褒賞するか、という「組織設計」を作り込む必要があります。管理会計システムは土台として、その

成否に大きな影響を及ぼします。若林ゼミでの学びを通じて、会計は無味乾燥な数字の羅列ではなく、その中心には常に人間がいることを実感してくれりと嬉しいです。

■ 活動内容
3年生春学期は基本的な専門知識を習得します。秋学期にはグループごとに研究テーマを決め、企業訪問をしたり、他大学と合同で研究発表をする「インゼミ」を行います。4年生は卒業論文

を執筆します。論文のテーマは個人の関心に応じて自由に設定できます。

■ 新ゼミ生へ
会計に自信がなくても大丈夫！若林ゼミでは基礎から丁寧に学ぶため、置いていかれる心配はありません。一方で発展的な分析や実践にも取り組むので、経験者にも新たな学びがあります。グループワークや合宿、インゼミを通じて仲間と楽しく成長できるゼミです。ぜひ一緒に充実した時間を過ごしましょう！

人数：3年生21人、4年生19人 執筆者：坂平大翔、谷口晃大

会計・ファイナンス・コーポレートガバナンス

河内山 拓磨



■ 研究テーマ
財務会計を基礎とし、資本政策やコーポレートガバナンスなど企業をめぐる多様なテーマを扱います。現行制度や慣習を鵜呑みにせず、常に疑問を持って検証を重ねることが求められます。多角的な視点から価値創造に挑む、まさに会計学を軸とした「総合格闘技」です。

に疑問を持って検証を重ねることが求められます。多角的な視点から価値創造に挑む、まさに会計学を軸とした「総合格闘技」です。

■ 活動内容
会計学やファイナンス、経営戦略論など複数分野のテキストを輪読します。並行して、学んだ知識を基に自ら調査・分析を行い「付加価値」を生み出す発表を実施します。「So

what? Why so?」を常に問い続けることを重視し、先生や学生どうしの建設的な議論を通じて、思考力と学びを深めています。

■ 新ゼミ生へ
本ゼミのモットーは、「アットホームな知的集団」です。知的な刺激を得られる場でありながら、人とのつながりを大切に、誰にとっても「居場所」と感じられる環境

を目指しています。新しい発見や見方を創り出すことに喜びを感じ、クリエイティブかつ能動的に活動したい方をお待ちしております。本ゼミは一昨年新設されたばかりで、現在3期生の仲間を募集しております。私たちと一緒に、河内山ゼミの伝統の礎を築いてみませんか？

人数：3年生12人 (+聴講生1人)、4年生5人 執筆者：杉山由馬、飯塚萌

現代マーケティング研究

恩蔵 直人



■ 研究テーマ

ブランド戦略、製品市場戦略、市場参入戦略など、幅広いマーケティング戦略を深く掘り下げます。学生主体で研究テーマを設定し、発表することで、マーケティングの本質を理解し、主体的に学ぶことができます。

■ 活動内容

週1回の本ゼミと週2回のサブゼミで、4～5人のグループに分か

れて研究発表を行います。先生と学生からのフィードバックを通じて、マーケティング知識を深め、多角的な思考力を養います。サブゼミでは、学生主体で活動内容を決定し、議論を深めます。さらに、ビジネスコンテストへの参加や企業とのワークショップなど、実践的な学びの機会も充実しています。

■ 新ゼミ生へ

恩蔵ゼミの魅力は、学生が主体的

に活動できる環境です。研究テーマ設定や議論を通して、自主性と協調性を養えます。また、体育会や留学と両立しやすい環境も整っています。35年の歴史の中で培ってきたOB・OGとのネットワークも強みです。熱意と高い意識を持ち、互いに刺激を与え合いながら成長できる仲間を求めています。

人数：3年生25人、4年生22人 執筆：恩蔵 直人先生

マーケティング・サイエンス研究

守口 剛



■ 研究テーマ

マーケティング・サイエンスとは、マーケティングにおける諸問題に対しデータ分析などの科学的手法を適用することで、マーケティング上の意思決定の質を向上させる方法論を研究する学問分野です。デジタル化が進み多くのデータが集まる現代において、科学的な視点を踏ま

えてマーケティングを行うことの重要性はますます高まっています。

■ 活動内容

毎週行われる本ゼミ・サブゼミに加え、春学期は他大学と合同で行う「インターカレッジゼミ」、秋学期は「関東学生マーケティング大会」への参加が主な活動です。これらの活動を通

して、マーケティングに関する知識はもちろん、プレゼン能力やロジカルシンキング、統計的データ解析といった将来にも繋がるビジネス・スキルを身につけることが出来ます。

人数：3年生0人、4年生19人 執筆：守口 剛先生

消費者心理学研究

須永 努



■ 研究テーマ

消費者の行動や意思決定に影響を与える無意識レベルの要因を心理学の視点から分析し、よりよいマーケティングコミュニケーションを探究するゼミです。

■ 活動内容

毎週の本ゼミとサブゼミでは、消費者心理に関連したテーマでグループ研究を行います。また、

それらの研究成果を他大学の学生と発表し合う「合同ゼミ」と秋学期から始まる「企業プロジェクト」が3年次における主なイベントであり、物事の考え方やプレゼン能力といった学術的観点を超えた力を精一杯磨くことができます。

■ 新ゼミ生へ

扱っている学問は実はとても身近

な存在であり、ゼミ活動を通じて日常世界を紐解いていく感覚は消費者心理学のおもしろさといえます。実生活に「？」を投げ、自ら問いに答えようとする“探究心”と“主体性”はいつの時代でも価値は変わりません。須永ゼミは、新しい世界の見方と新しい自分に出会える最高の場です。ご応募お待ちしております！

人数：3年生22人、4年生19人 執筆：高田 恭佑

マーケティング・コミュニケーション研究

石井 裕明



■ 研究テーマ

マーケティング・コミュニケーションを中心に、様々なマーケティングの課題に取り組んでいます。消費者としての直感や経験を大切に、関連分野の学術的な理論やフレームワークから消費者の反応を正確に把握し、自分たちなりの実務的示唆を導くことがゼミの目的です。

■ 活動内容

3年次の活動では、実務家の方から課題をいただいて取り組むグループワーク、他大学との研究発表会、学会でのポスター発表、学外の学生論文コンクールへの投稿などを行う予定です。また、合宿などのイベントも実施していきます。

■ 新ゼミ生へ

石井ゼミは、2024年から開設されたゼミです。活動内容やイベントなどについては、皆さんの要望なども踏まえながら活動内容を決められればと思います。積極的かつ真面目に取り組んでくださる方の応募をお待ちしております。

人数：3年生21人、4年生21人 執筆：西本 満里

● 経営トピック

● 会計トピック

● マーケティングトピック

● ファイナンストピック

● 保険・リスクマネジメントトピック

● ビジネスエコノミクストピック

● 総合・学際科目分野

● 経営トピック

● 会計トピック

● マーケティングトピック

● ファイナンストピック

● 保険・リスクマネジメントトピック

● ビジネスエコノミクストピック

● 総合・学際科目分野

マーケティング・マネジメント研究

外川 拓



■ 研究テーマ

幅広いマーケティング課題を対象に、学術的視点と実務的視点の両面から分析を行います。変化の激しいトレンドの背後にある本質的な法則を探索し、時代等の条件に左右されない普遍的な知識の獲得を目指します。

■ 活動内容

3年次は、春学期にグループで

論文や事例の研究に取り組み、理論を体系的に学びます。秋学期には産学共同研究を実施し、実際の企業課題に対して理論を応用しながら分析、提案を行います。4年次は卒業研究を中心とし、学会発表や他ゼミとの合同発表にも挑戦する予定です。

■ 新ゼミ生へ

外川ゼミでは、普段からマーケ

ティング関連の話題に触れ、問題意識をもち、能動的に活動に取り組みの方を歓迎しています。また、本ゼミは2026年度からの新設ゼミであり、活動内容や運営体制については模索を続けています。そのため、組織づくりに積極的に関わっていく意欲のある方をお待ちしています。

人数：3年生 23人、4年生 0人 執筆：藤村三平、関口壮一郎

The World's Corporations in a Globalized Society



広田 真一



台湾の大学でのプレゼンテーション

■ 研究テーマ

世界中の企業の経営について学びます。企業の目的、行動、戦略、ファイナンス、ガバナンス、パフォーマンス（収益性、成長性、ESG）等を国ごとに比較し、各国の企業の共通点と相違点を考察します。そして、そうした国ごとの企業の特徴が、その国の経済、法律、文化、宗教などから生じているかどうかを検討します。

■ 活動内容

ゼミでは、世界の企業、経済、法律、文化、宗教等の知識を身につけ、分析力・考察力を高めるとともに、英語と日本語のどちらでもプレゼンテーション、ディスカッション、ライティングができるようにします。また、今や広田ゼミの伝統となった慶應義塾大学や一橋大学とのインターゼミ（日本語で実施）、中国・香港・台湾・韓国・シンガポ

ールなどの海外の大学の学生との共同学習（英語で実施）も行います。

■ 新ゼミ生へ

ゼミでの学習に情熱を持って取り組み、君たちの資質とポテンシャルを著しく伸ばし、10年後に日本で、あるいは世界で、グローバルな社会に貢献する人になることを願っています。

人数：3年生 0人（2027年度サバティカルのため）、4年生 9人 執筆：広田真一先生

コーポレート・ファイナンス

谷川 寧彦



■ 研究テーマ

ファイナンスと機械学習です。主に金融関連の数値データと機械学習の手法を用いて予測や分類を行います。健康診断でコレステロール値が高いと運動量を増やすようアドバイスされるのことが多いのですが、データ上は運動量が多い人はコレステロール値も高いという傾向がありま

す。このようなパラドックスを解決する手段も学びます。

■ 活動概要

使うプログラム言語はPythonです。基本を習得した後、ある日の株価の騰落を前日までのデータから予測するモデルを推定するなど、具体的な応用例を学びます。また、他大学とディベート交流試合も行います。

■ 新ゼミ生へ

時間を守り自分の守備範囲はきちんとこなすなど、チーム活動ができることが前提です。各人がゼミでやりたいことを互いに調整し、ゼミとしてまとまった活動ができれば、有益な2年間になると思います。

人数：3年生 14人、4年生 14人 執筆：谷川寧彦先生

フィナンシャル・エコノミクス

尾崎 祐介



■ 研究テーマ

行動経済学の視点から金融を学ぶゼミです。心理学と経済学を組み合わせた行動経済学のテーマである「なぜ人間は非合理的な行動をするのか」を切り口に、金融分野の研究を行います。

■ 活動内容

3年生では行動経済学の教科書の輪読を行いつつ、グループに分かれて商学部懸賞論文に向けて準備

を進めていきます。研究を進めるなかで、ビブリオバトルやゼミ合宿、他大学との合同ゼミを行い、多くの発表機会を設けています。またグループ活動が中心なので、ゼミ生と切磋琢磨しながら学ぶことが出来ます。

■ 新ゼミ生へ

尾崎ゼミではメリハリを大事に活動しており、学んだことをアウトプットする機会が多くあります。

金融をメインとしたゼミではありませんが、ゼミ生が興味ある分野を行動経済学の観点から学ぶことが出来ます。学生の主体性を重視し、学生が新しい取り組みを提案することも可能です。学生生活最後の2年間を尾崎ゼミで有意義なものにしましょう。

* 2027年度は在外研究のため応募しない予定です

人数：3年生 0人、4年生 0人（教員が在外研究のため） 執筆：江崎美紗希

フィナンシャル・インベストメント

片桐 満



■ 研究テーマ

ファイナンスや株式投資について研究しています。ポートフォリオ理論の基礎的な勉強から始め、プログラミングを用いたポートフォリオ構築や、データ分析を通じた投資テーマの選定について学びます。

■ 活動内容

ファイナンスやデータ分析の教

科書を輪読しながら、教科書で学んだ理論をデータ分析に応用してもらいます。データ分析については、そのためのプログラミング演習も取り入れます。並行して、ストックリーグという株式投資コンテストに参加し、数人のグループを作って、自分たちで選んだテーマに沿って投資先を選んでもらいます。

■ 新ゼミ生へ

投資経験のある方や金融機関への就職を考えている方はもちろん、金融に少しでも興味のある人たちが、幅広く楽しめるゼミにしたいと思っています。

人数：3年生 15人、4年生 15人 執筆：片桐 満先生

● 経営トピック

● 会計トピック

● マーケティングトピック

● ファイナンストピック

● 保険・リスクマネジメントトピック

● ビジネスエコノミクストピック

● 総合・学際科目分野

リスクマネジメント研究

李 洪茂



めまぐるしく変化する現代において、企業が潜在するリスクを予測し、管理することはますます重要になっています。私たちのゼミでは、金融危機、企業の不祥事、リコール事態など、企業が抱えるさまざまなリスクを特定し、それに対処する手

段について研究しています。このゼミは、毎週1人がプレゼンテーションを担当し、その内容について討論する形式で進められています。プレゼンテーション能力や論理的思考力、議論を通じて情報・自分の考えを伝える力も養うことができます。

また、このゼミには、リスクマネジメント分野の世界的に権威のある李先生をはじめ、個性豊かな仲間が集まっています。リスクマネジメントに関心のある方はもちろん、楽しみながらも真剣に学びたい方、ぜひお待ちしております！

人数：3年生 12人、4年生 0人 執筆：坂井 瑞希

Study of Insurance from a Global Perspective



中出 哲



■ 研究テーマ

保険を題材にしていますが、ゼミで扱うテーマはとても広いです。保険は社会の様々な領域に関わっているためです。特に、外国の保険制度やグローバルな保険に関心を持っています。研究テーマはゼミ生が議論して決めます。昨年度は、東南アジアの自然災害・DX化・日本の農業問題に対する新保険の構築に取り組みました。

■ 活動内容

昨年は例年同様、年間を通して開催

される「保険アイデアコンペ」に向けて、新保険制度の発案に取り組みました。(2025年度も無事優勝し、韓国本戦の日本代表枠を勝ち取りました!) 秋には「東京学生保険ゼミナール」の参加に加えて、日本代表として参加した韓国での「保険アイデアコンペ」にて英語で新保険制度を提案し、特別賞もいただきました。このように活動内容は国内外幅広いものとなっています!

■ 新ゼミ生へ

本ゼミは多様な分野に強みをもつ学生によって主体的に運営を行う点に特徴があります。そのため、自ら主体的に活動することが大切です。また、多様な学生が在籍しているからこそ、何かに挑戦しようとするゼミ生を全力で応援する環境が揃っています。進路も様々で、就職に限らず、長期留学する者や国内外の大学院に進学する者など多岐にわたります。

人数：3年生 8人、4年生 10人 執筆：上野 通大

保険経営と数理

星野 明雄



■ 研究テーマ

保険を保険会社の戦略や保険事業の特性など様々な観点から研究します。複数の研究案を持ち寄り、投票によりテーマ・グループを決定します。テーマに応じて数理的な分析が必要となりますが、数理知識は特に問われません。(昨年と今年のゼミ長の基礎数学の成績はCです!)

■ 活動内容

今年度は「採用・研修における回

収不能リスク」「シェアモビリティ」などに注目し研究を行っています。1チーム4人ほどに分かれて発表準備を行い、ディスカッションを通してテーマについての理解を深めます。また、今年度はそれらの研究テーマを基に、他大学との合同発表会にも参加する予定です。

■ 新ゼミ生へ

本ゼミは開講して5年目の比較的新しいゼミです。最大の特徴は、

先生と先輩との距離の近さです。保険会社での多くの実務経験に基づき、多面的なアドバイスをしてくださる先生と、個性豊かなゼミ生が、温かい雰囲気の中で活動しています。少人数の保険のゼミだからこそ経験できることが多いため、少しでも興味があればぜひ説明会にお越しください!

人数：3年生 6人、4年生 7人 執筆：永石 遼斗

保険法研究

中村 信男

■ 研究テーマ

このゼミは、「保険・リスクマネジメント」トラックに新たに設置する専門演習であり、保険制度等を法的な観点から研究することを目的とする。すなわち、保険制度が、保険契約者と保険者間の保険契約を前提として利用されるものであり、契約当事者間の関係のみならず、保険者と損害保険の被保険者・生命保険

の保険金受取人との関係等も、法律上の権利義務の問題として捉える必要があるため、当該トラックで保険制度を学習するに当たり、保険契約法の観点からするアプローチは不可欠である。そこで、本ゼミでは、保険契約締結における保険契約者等の告知義務や保険者（および代理店）の説明義務、保険金の支払・保険者の免責、保険金不正請求に対す

る法的規律等につき、裁判例をケーススタディの素材として用いて、保険制度を法的に検討する。

■ 活動内容

本ゼミは、上記のテーマにつき、予め割り当てられた裁判例を素材としてゼミ生にプレゼンテーションを行ってもらい、その後、ディスカッションを行うことを基本的な活動内容とした上で、業界関係

者をゲストスピーカーとして招くこと等を予定している。

■ 新ゼミ生へ

本ゼミは、従来「会社法研究」という名称のゼミを経営トラックで開設していた担当者が、保険トラックに移ったことに伴い新設するものであるが、保険制度を法的にも学んでみたい場合は、奮って応募して欲しい。

人数：3年生0人、4年生0人 執筆：中村 信男先生

貿易商務研究

田口 尚志

■ 研究テーマ

本ゼミは「貿易」を、とにかく具体的に、客観的に、ありのままに観察し、そこから物事を考えてみようというゼミです。必然的に、オペレーション・レベルの現場を大切に、オベーション・レベルの現場を大切に、より上層レベルの事象も重視しながら（国際関係に絡んだ高次元の諸問題にも関心を持ってもらいたい）、「貿易」を考えてゆきます。要は、「貿易」を様々な角度から研

究し大学4年間の集大成である卒業論文に活かす。これが田口ゼミの研究テーマです。

■ 活動内容

ひたすら地味な内容です。安価でどこでも読める文庫や新書を中心に、できる限り多くの、幅広い内容の本一傾向としては歴史を重視したものを多く読み、考え、議論し、また考える。そして、それを卒業論文に活かし、仕上げてゆく。これらのごくごく普通のごくごくありふれた一連のプロセスです。大きなジャンプをするには大きく屈まなければなり

ません。「将来のために一度大きく屈んでみるか」と心を決めた学生に、とくに、いつでも容易に他者と繋がる今だからこそ、孤独になって物事を見つめ書庫に潜りこんで考えてみたいという学生に（ほんの少しでもそこに価値を見い出せる学生に）、来てもらいたいと思っています。ゼミは3・4年合同で行います。今年も例年通り多くの本を読む予定を組んでいます。参考までにゼミ3年生が本年度中に読むのは、『ザ・フェデリリスト』、『アメリカ外交50年』、『民間防衛』等を含め合計30冊（他

に英語論文も数本）ほどに上ります。少しきついかもしませんが本学の学生はそれをこなす能力を十二分に持っているの、積極的にトライしてもらいたいと思っています。

■ 新ゼミ生へ

3・4年合同の合宿を計画しています。本当の面白みというのは真剣さがあってこそ生まれます。尖った真剣味を求めている学生は、是非、田口ゼミの門を叩いてみてください。皆さんよりほんの少し成熟したゼミ生が、あたたかくーときに厳しくー迎えてくれるでしょう。

人数：3年生8人、4年生10人 執筆：田口 尚志先生

Study of International Trade Risk Management



任 素英



■ 研究テーマ

国際貿易は国内企業に海外市場への進出機会を提供します。また、企業は国際貿易を通じて生産規模の拡大、コスト削減を実現し、規模の経済性を達成します。現在、国際貿易リスクは新たな貿易リスクで多様化しています。したがって、変化する国際貿易リスクを分析し、対応策を適用することは、持続可能な国の経済、企業のビジネスのために、欠かせない永遠のテーマです。

■ 活動内容

任ゼミでは、リスクマネジメントの理論を基に、国際貿易で発生可能な様々なリスクを把握し、実際の事例を通じて分析することに重点を置きます。3年生の春学期は国際貿易に関する英語文書の読解と発表の練習を通じて国際貿易リスクを把握します。3年生の秋学期は、国際貿易リスクとリスクマネジメントに関するケーススタディと学術論文を読解す

る練習をします。その後は論文のテーマを自分で設定し、本格的に研究活動を開始していきます。

■ 新ゼミ生へ

国際貿易とリスクマネジメントに興味があり、熱意をもってゼミに取り組める学生は誰でも歓迎します。研究発表や、論文作成を2年間、英語で行う練習を通じて、皆さんがグローバルで活躍できる人に成長することを期待しています。

人数：3年生9人、4年生7人 執筆：任 素英先生

マクロ経済理論

片岡 孝夫



■ 研究テーマ

当ゼミのテーマの中心はマクロ経済学の理論です。マクロ経済学は時代とともに変化してきており、一本の木のように発展してきました。私たちはJ.M.ケインズの理論を出発点として、それが多様な理論に発展する様子を学習し、それぞれの持つ考え方の相違点や背景について研究しています。中にはノーベル賞もの理論もあり、それを理解することもできるのです。理論という堅苦しく聞こえるかも知れませんが、それは世界が動く仕組みを根本から理解し

ようとする幾多の努力の結晶です。そうしたことを実感し、もの見方を身につけることは、一時の流行に惑わされずにものごの本質を見極める力になるでしょう。

■ 活動内容

普段の活動では、教授お手製のテキストや論文の輪読、マクロ経済のシミュレーション分析の実習や自由なテーマによるプレゼンテーションを行ないます。その他、合宿や企業見学などのイベントも行っています。合宿では、四年生のリードのもと、班

ごとに行ってきた研究の発表を行います。

■ 新ゼミ生へ

片岡先生は朝からで親しみやすく、また非常に学生思いで、一人ひとりにしっかりと目をかけてくださいます。一方、学生の自主性を重んじ、新たなチャレンジを歓迎されています。私たちは、型にはまらず、ゼミ生がそれぞれの個性を発揮して活動することを目指しています。ゼミでの活動は一生の財産になると思います。数学に不安な人、慣れるから大丈夫！ぜひ、積極的に参加お待ちします！ X: @kataokato_k_zemi

人数：3年生14人、4年生16人 執筆：齋藤 沢和

開発経済学研究

高瀬 浩一

当ゼミでは、主に発展途上国の経済分析を中心とする開発経済学を学びます。担当教員が取り組んでいる太平洋諸島海域（特に、ミクロネシア）に関する研究に加えて、各ゼミ生が関心のある世界中の途上国について研究することができます。3年生のゼミは、商学部卒業生として標準的な素養や技術、さらに、4年生の卒業研究に必要な

知識を身につけることを目的とした授業が展開されます。具体的には、ミクロ経済学の基礎の習熟（開発経済学の教科書の輪読）、実用的な英語（英字新聞の講読や英語による課題発表）、統計分析（自分の担当国に関するデータ分析）、時事的な背景知識などに関する授業などが挙げられます。また、年に数回、外部の研究機関や施設にてフィー

ルドワークを行うこともあり、生きた知識を身につける事ができます。当ゼミ最大の特徴は、ゼミ活動がほぼ全てゼミ生の主体性に委ねられている点にあります。合宿やOBOG会の開催から、授業の運営方針まで、ゼミ生が主体的に意見を出すことができる自由闊達なゼミです。学生生活において卒論など何か一生懸命頑張った成果を

残したい方や、決められた受け身のゼミ活動だけでなく、自分達でゼミ活動を運営していきたい方の参加をお待ちしております。ちなみに、来年度は担当者の在外研究により、ゼミは開講されません。

人数：3年生0人、4年生5人 執筆：高瀬浩一先生

コンピュータによる統計分析とその応用

坂野 慎哉



■ 研究テーマ

本ゼミでは、統計を「特技」として活用する力を身につけることを目標に、基本的な統計理論とコンピュータ操作を学んでいきます。ゼミ生全員が、統計的な考え方とデータ分析力をバランスよく高めることを目指しています。

■ 活動内容

3年次には、統計学の基礎知識を身につけるとともに、Excelなどを用いた演習で実践的なスキルを習得します。また、統計検定2級の合格を目標に、問題演習にも取り組みます。4年次には、計量経済学分野を学習し、卒業論文にも取り組んでいます。

■ 新ゼミ生へ

本ゼミでは、基礎から応用まで幅広く学ぶことができます。坂野先生は授業での小さな疑問もわかりやすく説明して下さるので、安心して勉強できます。データに基づく思考力を身に付けた人にとって、貴重な最初の一歩を踏み出せる場となるでしょう！

人数：3年生1人、4年生5人 執筆：工藤梨暖

企業の経済学

久保 克行



■ 研究テーマ

主に企業のデータを用いて多角的に分析しています。近年はAIを活用し、財務情報や株価にとどまらないデータを用いた研究も行っています。例えば、「あるチェーン店が多くの店舗でアルバイト募集をしている場合、それは事業拡大の兆しといえるのか」といったデータ分析を用いて企業の実態を捉えています。このようにデータ分析

能力をもとに、マーケティング、経営戦略、国際経営などの知見も横断して学んでいます。

■ 活動内容

論文をグループごとに分析しプレゼン発表を行います。発表の際に先生からの確かなアドバイスを頂けるので、リサーチ力と論理的かつ簡潔に話す力が身に付きます。校外活動は春には企業協同ワーク、秋には台湾研修を予定しています。

■ 新ゼミ生へ

毎年1、2名ほどアナリストを目指す学生がいて、意欲的に学べる環境が整っています。グループ活動では軽井沢、台湾での合宿もあるため、ゼミ生同士の交流も深まりやすく、楽しく充実したゼミ生活を送ることができます。

人数：3年生17人、4年生18人 執筆：松村優希、安場代進

計量経済学とその応用

片山東

■ 研究テーマ

人や企業の行動、社会現象を説明するために社会科学には様々な理論があります。それらの理論の妥当性を検証するために、「理論の与える仮説が現実のデータとマッチしているかどうか」、また「現実のデータを理論がどの程度説明できるか」を統計的にチェックする方法があります。計量経済学はそのためのツールです。理論の検証以外にも計量経済学は用いられます。例えば、政府が行った政策

の定量的評価や、「ある製品の価格や属性が変化したときに、その製品や他の製品のマーケットシェアはどのように変化するか」などの予測にも用いることができます。このゼミは、(1) 計量経済学の手法の理解、そして (2) 計量的手法を用いて現実のデータを分析する能力を身につけること、を目的とします。

■ 活動内容

計量経済学の学習は、「理論」の学習と「応用」（すなわち計量の理論をどの

ように現実のデータに用いるのか）の学習の二本立てになります。「理論」については教員による講義がメインです。「応用」については、計量ソフトを用いて現実のデータを分析することで、計量的手法を実際に使えるようになることを目指します。3年次の後期は2つのチームをつくり、それぞれのチームで論文を作成し、学部の懸賞論文に応募することを目標とします。この過程で学術論文の書き方を学習します。4

年次は自分でトピックを選び卒業論文を作成してもらうことになります。

■ 新ゼミ生へ

履修に際しては (1) 必修科目「基礎数学」程度の数学の知識、(2) 選択科目「基礎統計学」程度の確率・統計学の知識、(3) 初級レベルのミクロ経済学の知識、そして (4) Excel と Word が使える程度のコンピュータのスキル、が前提となります。この中でも確率・統計の知識は特に重要になります。

人数：3年生6人、4年生6人 執筆：片山東先生

● 経営トラック

● 会計トラック

● マーケティングトラック

● ファイナンストラック

● 保険・リスクマネジメントトラック

● ビジネスエコノミクストラック

● 総合・実践科目分野

経営トピック
会計トピック
マーケティング
ファイナンス
保険・リスク
ビジネス
エコノミクストピック
総合・学際科目分野

産業組織論研究

加納 和子

■ 研究テーマ

産業組織論は、企業を経済主体として扱い、市場・産業における企業の相互依存関係や消費者行動を分析する応用ミクロ経済学の一分野です。日頃接している小売企業の戦略はどのように分析できるのか、またそうした戦略は消費者にどのような影響を及ぼすのかといった問いについて、経済学的な

視点を中心に考えます。また、ゼミではデータ分析の手法も学習します。実際にデータをみて自ら分析することで、多くの発見を得ることができます。

■ 活動内容

3年次には文献の購読とゼミ生による報告を行い、産業組織論の基礎的な理論やトピックを学習します。代表的な教科書や論文を輪読し、

データ分析の学習や演習をふまえたグループワークを行います。4年次には個人研究の発表と卒論の作成を行います。自ら問いをたてデータを収集し、統計学的手法を用いて分析・考察していただきます。

■ 新ゼミ生へ

グループワークや卒論研究では、必ずしも産業組織論の枠にとらわれる必要はなく、自身が重要だと

思う問題を深く考察してほしいと考えています。関心はあるけれど一見どう扱ってよいのかわからないテーマをどのように分析可能とするかはゼミ生次第です。そのような問いにこそ、重要な問題提起がかけられている可能性があります。一緒に活気あるゼミを創っていきましょう。

人数：3年生12人、4年生10人 執筆：加納和子先生

Empirical Study of Policy Evaluation



富 蓉



■ 研究テーマ

The primary aim of this seminar is to facilitate students in enhancing their decision-making proficiencies. Empirical investigations endeavor to infer a causal conclusion regarding the research inquiry by utilizing data obtained through observations or experiments.

■ 活動内容

This seminar mainly concentrates

on quantitative analysis, thus enabling students to acquire a comprehensive understanding of econometrics and to adeptly utilize statistical software like Stata to deduce legitimate causal inferences. Once they have established a solid foundation in empirical research, students will be expected to present their own research proposals, which could pertain to any field, such as

the healthcare system, education system, or financial laws.

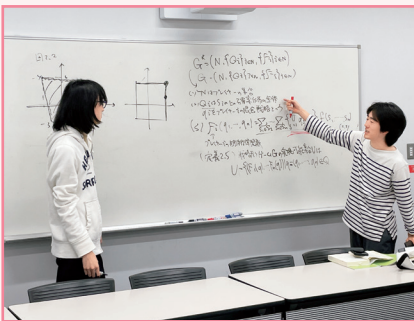
■ 新ゼミ生へ

Upon successfully completing the seminar, students should be able to scrutinize the impact of policies using an evidence-based methodology, a fundamental skill that would be exceptionally advantageous for their future careers or graduate studies.

人数：3年生0人、4年生0人 執筆：Rong Fu 先生

数理経済学研究

原 和弘



このゼミでは、数理経済学に関する研究を行います。主に意思決定理論とゲーム理論の研究を行います。意思決定理論は個人や集団の意思決定について研究する学問です。ゼミでは特に経済学の様々な文脈における合理的意思決定についての研究と、そうした研究をゲーム理論等の関連分野に応用する研究を行っ

ています。ゼミの目標は、卒業論文としてある程度独自性のある研究をまとめることです。3年次は数学書の輪読を行い、必要な数学の知識を身につけます。数学は第二外国語としてコスパが良く、一年間の勉強で多くの学術書や論文が読めるようになります。4年次は卒業論文のテーマを決め、関連書籍を読

みながら研究を進め、成果をまとめます。ゼミ生には研究活動を最優先し、主体的に取り組むことを期待します。並行履修科目として「ゲーム理論と戦略」を設定しています。

人数：3年生2人、4年生0人 執筆：原和弘先生

国際経済学研究

横山 将義

■ 研究テーマ

国際経済学は、ものの流れを対象とする国際貿易論と、かねの流れを対象とする国際マクロ経済学(国際金融論)から構成されます。これらを学ぶ上で、ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎をしっかりと修得することが前提となります。また、理論のみならず、その応用としての経済政策についても研究を行います。

■ 活動内容

3年生のゼミでは、まずミクロ・マクロ経済の基礎理論を取り上げ、その後、国際経済学の分野へと進みます。テキストの指定範囲をグループごとに報告してもらい、ゼミ生間の議論を通じて国際経済学に対する理解を深めることとなります。4年生は1年間学んだ理論的背景をもとに、みずからテーマを設定して卒業論文

の執筆にあたります。経済学の分析手法などを用いて2年間の研究成果をまとめる機会となります。サブゼミは、本ゼミの準備に充てる場合もあれば、懸賞論文に取り組む場合もあり(日銀懸賞論文等で入賞しています)、ゼミ生自身が決めることになっています。毎年9月にはゼミ合宿を行い、研究だけでなく、スポーツやバーベキューなどゼミ生間の親

睦を深める機会となっています。

■ 新ゼミ生へ

ゼミは研究報告や相互の議論とおして、ものの見方やものの考え方を身につける場です。このような知的な取り組みは、社会に出たからさまざまな場面で役立つものだと思います。ゼミは共同作業の場なので、各種の活動に協調して取り組む姿勢が必要になります。

人数：3年生11人、4年生13人 執筆：横山将義先生

国際経済関係研究

池尾 愛子



■ 研究テーマ

人間の活動を根底から支える、化石燃料や再生可能エネルギーのようなエネルギー源に関して、幅広い観点から研究するゼミです。活動の中では、エネルギーと強い相関がある世界情勢や国際経済の動向について学ぶこともできます。

■ 活動内容

3年前期では、資源エネルギー庁の『エネルギー白書』をはじめとした

様々な資料や文献を用いて、国内外のエネルギー動向に関して前提知識を得ます。その後、夏休みの合宿や後期ゼミではグループワークを行い、発展的な議論、発表を行うことを目標に活動します。また、発表内では逐次教授から内容の補足やアドバイスをいただけるため、理解をさらに深めることが可能です。

■ 新ゼミ生へ

日本は、極めて低いエネルギー自給

率の上に成り立っています。今後、こうした構造を変革していくのはまさに私たちの世代です。また、近年、SDGsなど環境意識の高まりから、エネルギー分野は注目を集めています。このゼミに参加することで、前述したような社会課題に対する理解を深め、自分自身の考えをもつ一助になると考えます。皆さんもぜひ、エネルギーの観点から国際経済関係を研究してみませんか？

人数：3年生0人、4年生12人 執筆：武井学陽

Economic and Business History: Global Perspectives



矢後 和彦



■ 研究テーマ

本ゼミでは、グローバルな視点から経済とビジネスの歴史を探索します。国際機関やグローバル企業のアーカイブ資料（公文書や記録）を活用し、意義のある歴史的な問いを立てる方法や、複雑な記録を分析する手法を学びます。経済活動がいかにより国際社会を形作り、また社会が

ら影響を受けてきたのかを、長期的な視点から分析的に理解することを目指します。

■ 活動内容

一次史料の読解や歴史データの分析を通じて、批判的思考力（クリティカル・シンキング）とコミュニケーション能力を養います。また、GMP（グローバル・マネジメント・プログラム）の

一環として、多様なバックグラウンドを持つ未来のグローバルリーダーたちと交流する機会も豊富にあります。

■ 新ゼミ生へ

英語で授業が行われるので、英語力をつけたい方を歓迎しております。専門的な知識は必要ありません。ぜひ一緒に歴史をひも解いていきましょう！

人数：3年生15人、4年生15人 執筆：遠藤照太

雇用労働研究

小倉 一哉

■ 研究テーマ

働く人の約9割は、「雇われて」働いています。そのような人々を雇用労働者と言います。「雇用労働研究」とは、雇われて働く人の様々な問題を考えることを意味しています。就職活動・インターンシップ、アルバイトのトラブル、働き方改革・過労死、同一労働同一賃金、ジョブ型雇用、AIと雇用、副業・兼業、

障がい者雇用など、様々な問題がある今日、ゼミを通じて主体的に学ぶことを、目的としています。

■ 活動内容

3～4人を1つのチームとして、半期ごとにチームを入れ替え、グループ研究をして、期末に研究発表をします。各チームは、研究テーマを相談し、関連する文献サーベイを行い、関係者へのインタビュー

調査を実施し、最後にプレゼン資料を作成して、発表します。テーマによっては、インタビューを依頼する人や会社が複数になり、また、遠方へ出かけることもありますが、自ら企画しフィールドワークをすることは、ゼミ生の実行力を育み、とても良い社会勉強になっています。

■ 新ゼミ生へ

3年生はサブゼミが1コマありますが、部活動などと両立できるように、その他の時間をゼミ活動で使うことは基本的にありません。ただし、その分、積極的にゼミ活動に取り組まないと、仲間にも迷惑をかけます。「ゆるさ」だけを求めて来る人は、遠慮して下さい。

人数：3年生15人、4年生17人 執筆：小倉一哉先生

産業・企業ダイナミクス研究

宮川 大介



■ 研究テーマ

実証分析手法の学習とその応用を中心に学びます。最終的には、ゼミ生自身が興味を持ったテーマについて、データを収集・分析し、その結果をどのように解釈するかを考えられる力を身につけることを目標としています。

■ 活動内容

3年次前期では、RとStataを用いてデータ分析手法を学習します。3

年次後期から4年次にかけては、学んだ手法を用いたりサーチを、コンクールへの参加や卒業論文といった形で実践に移っていきます。宮川ゼミは討論スタイルで行われるのが特徴です。ゼミ生の発表に対して宮川先生だけでなくゼミ生同士でも質問をすることで理解を深めます。

詳細は、こちらをご覧ください。

<https://sites.google.com/view/miyakawa-seminar-wdsoc/>

miyakawa-seminar-wdsoc/

■ 新ゼミ生へ

データ分析では、分析手法やデータの背景、さらに分析結果を理解し、それを相手に伝えるための思考力が求められます。そのため、さまざまな視点から物事を考え、分析的な専門性を身につけたい方を歓迎します。

人数：3年生5人、4年生5人 執筆：寺田拓生

経営トラック

会計トラック

マーケティング

ファイナンス

保険・リスク

ビジネス

エコノミクス

総合・学際科目分野



経営トラック

会計トラック

マーケティングトラック

ファイナンストラック

保険・リスクマネジメントトラック

ビジネスエコノミクストラック

総合・学際科目分野

国際貿易と経済学

市田 敏啓

■ 研究テーマ

本ゼミでは国際貿易に関するトピックを中心に据えながら、「経済的な考え方」を身につけ、世の中のあらゆる出来事に対して「自分の頭で考えること」ができるようになることを目的としています。英語のテキストを用いて経済学とプレゼンテーションの仕方を学び、日本語の文献を大量に読んで議論

します。市田ゼミに入ると、英語力、ロジカルシンキング、プレゼン力、経済学の基礎と応用が身につきます。

■ 活動内容

通常のゼミ活動、サブゼミに加えて、国内の勉強合宿が年2回、海外大学交流・研修合宿（2023はタイ2024は台湾）が年1回、スキー合宿、インゼミ活動（昨年度は学

習院、上智、青山、中央、津田塾など）を行います。先生はゼミ後の食事会などにも頻りに顔を出してください。他愛のない話から社会で身につくマナーなど様々なことを教えてください。また、先輩後輩の繋がりも市田ゼミの大きな魅力の1つです。卒業後の進路は総合商社、金融業界、大手メーカー、コンサルティング、マスコミ、

大学教授職、シンクタンク研究者、国家公務員総合職など、多岐にわたります。

■ 新ゼミ生へ

ゼミ活動の良さは、仲間と一緒に難しい課題に取り組むことです。活動に必要なのは、「やる気」や「積極性」であり、今勉強が得意であるかは全く関係ありません。市田ゼミで一所懸命に頑張りましょう。

人数：3年生19人、4年生9人 執筆：丹治和貴

国際貿易研究

横田 一彦



14期生と15期生



ゼミ総会



人数：3年生14人、4年生14人 作成者：15期生一同

日本経済史・経営史

結城 武延

■ 研究テーマ

結城ゼミでは、日本経済史・経営史を対象に、企業、市場、金融システム、制度がどのように形成され、変化してきたのかを学びます。歴史を単なる過去の知識としてではなく、現在の経済や経営を理解するための手がかりとして捉えることを重視しています。とくに、企業や投資家、政府などの経済主

体が、どのような環境のもとで意思決定を行ったのかを、史料やデータに基づいて考えることが本ゼミの特徴です。

■ 活動内容

前期は、歴史学の方法論に関する文献を輪読し、史料批判、論文の読み方、問いの立て方、議論の組み立て方を基礎から学びます。そのうえで、文章資料の読解だけで

なく、統計や数量データも活用し、定性と定量の両面から歴史を分析する力を養います。報告や討論では、内容紹介にとどまらず、論点や疑問を自分の言葉で示し、根拠をもって議論することを大切にしています。

■ 新ゼミ生へ

歴史が好きな人はもちろん、企業や市場の成り立ちを深く知りたい

人、資料やデータを用いて論理的に考える力を身につけたい人を歓迎します。ゼミは教員と学生が一緒につくっていく場です。自ら問いを立て、仲間と議論しながら学びを深めたい人の参加を待っています。

人数：3年生12人、4年生0人 執筆：結城 武延先生

西洋哲学史理論研究

辻内 宣博

■ 研究テーマ

このゼミでは、西洋哲学の歴史を哲学理論的な観点から研究することを主要テーマとしています。古代・中世期の哲学、あるいは、近世・近代期の哲学であっても、できる限り、現代哲学のテーマトピックと関連させることを目指します。というも、哲学という学問は、歴史性がありつつも、他方で、

どの時代でも根本的には似たような問題圏をめぐって議論を積み重ねていると考えるからです。

■ 活動内容

哲学の研究手法は、基本的には、文献研究です。それゆえ、まずは読むべき資料を確定し、その後、精密かつ丁寧にその資料を読解していくことがベースになります。その精密で丁寧な読解の中で、こ

れがどんな議論に繋がっていくかが見えてくることもありますので、適宜、資料を離れて、身近な事例を使いながら、議論を深めていくこととなります。

■ 新ゼミ生へ

商学部に進学したのに、なぜ人文科学研究？と思われるかもしれませんが、しかし他方で、近年の企業経営において、哲学や倫理学に基づ

いて、物事の理解の仕方や考え方を再検討するという試みが行なわれることもあります。いわゆる、批判的な分析／クリティカル・シンキングとなりますが、この手法は、哲学が生まれつき備えていた方法論です。もしこのようなことに関心があれば、是非、選択肢の一つとして検討してみてください。

人数：3年生5人、4年生0人 執筆：辻内 宣博先生

トポロジー理論研究

安原 晃

■ 研究テーマ

私の専門分野は幾何学の一分野である(低次元)トポロジーです。特に結び目理論の研究をしています。このゼミでは、結び目理論に限らず、トポロジーに関連するテーマを勉強する予定です。具体的なテーマはゼミ生と相談の上で決める予定です。

■ 活動内容

トポロジー関連の専門書(洋書)を輪講形式(1冊のテキストに関して、ゼミ生が順番に講義する)で勉強していきます。担当者は、自分が先生になったつもりで、入念に「講義」の準備をして来て下さい。私は、生徒になったつもりでいろいろと質問

します。あらかじめ担当者を決めて行いますが、担当者が欠けた場合は、他のゼミ生と交代してもらるので、各自が毎回発表できるように準備してきて下さい。

■ 新ゼミ生へ

トポロジーの知識を得るためだけでなく、数学の専門書を通

して、正しく理解し(読み)表現する(書く、話す)力を培うことが、ねらいでもあります。数学の基礎知識が足りなくとも、やる気さえあれば何とかできます。毎回の予習・復習には、かなりの時間を費やす覚悟が必要です。

人数:3年生0人、4年生0人 執筆:安原晃先生

力学系理論研究

渡邊 展也

■ 研究テーマ

力学系理論(dynamical systems)は時間と共に変化する状態の記述を元とする数学の分野の一つです。力学系的な考え方は数学の様々な分野に現れますが、歴史的には、そのメインストリームは、ポアンカレによる三体問題における常微分方程式の解の定性的(位相的)研究に発し、様々な先駆的研究の

のち、スモール達やロシア学派による双曲的力学系の構造安定性を中心とした研究を経て、ストレンジアトラクターの構造の解明など、現在では一様双曲性を越えた更に精緻な研究が盛んに行われています。カオス理論や準結晶などとも関係があります。数学の他の分野との関わりもますます深く緊密になってきています。力学系の考え

方の基本を理解し、ある程度使うことができるようになることが目標です。

■ 活動内容

力学系理論研究ゼミでは力学系理論のテキストを選び、輪講形式で基礎からしっかりと学んでいきたいと思えます。(輪講形式とは、学生が順番に内容を解説して学んでいくことです。)

■ 新ゼミ生へ

基本的なことからしっかりと理解して進めていきたいと思えますので、積極的に予習復習を時間をかけて行うことが必要になると考えられます。意欲のある方の参加を期待いたします。

人数:3年生0人、4年生0人 執筆:渡邊展也先生

幾何学理論研究

山口 祥司

■ 研究テーマ

数学において図形を研究する分野を幾何学といいます。さらに図形の定量的な性質を研究する分野は微分幾何学、定性的な性質を研究する分野は位相幾何学(トポロジー)とよばれています。この他にも多項式方程式が定める図形を研究する代数幾何学といった分野もあります。このゼミでは微分幾何

学・位相幾何学に関連する内容を学びます。大学で学習する微分積分学・線形代数学・群論を応用して図形を研究する発展的な内容を予定しています。

■ 活動内容

幾何学理論研究では微分幾何学・位相幾何学の専門書をテキストに選び、輪講形式でテキストの内容を学習します(輪講形式とは参加

生がテキストの担当箇所を順番に解説講義して内容を学習する形式のことです)。ゼミで使用するテキストは幾何学の専門書を想定していますが関連する内容であれば他の分野の専門書でも大丈夫です。テキストの選定は参加学生と相談して決定します。

■ 新ゼミ生へ

数学の専門書は多かれ少なかれ説

明の細部を読者が補うことを想定して書かれています。専門書の解説講義を行うには、専門書が省略していると思う説明の細部を準備しておくことが大切です。発表を意識して専門書を読み進めることで専門的な内容を深く理解し、参加学生と共有する方法を身につけていってほしいと思えます。

人数:3年生0人、4年生0人 執筆:山口祥司先生

英語コミュニケーション研究

佐藤 詩恵

■ 研究テーマ

本ゼミでは、英語学の専門知識をもとに高度かつ実践的な英語運用能力を段階的に養成していきます。国際的なビジネスの場で活躍することを目指す学生や、海外の大学院への進学を志す学生を主な対象としています。学校教育ではあまり扱われることのない話し言葉の文法や、ビジネスレターや契約書といったフォーマルな文書に適した表現を学び、状況に応じて「自然に響く

英語」を発信できる力を養成します。

■ 活動内容

まず、プレゼンテーションやディスカッションを通じて、多くの優れた英語関連書籍やビジネス実用書(日本語・英語)から要点を抽出し、得られた知識を整理することから始めます。その後、英語学分野の基本概念や用語を学び、GMAT対策問題集や学術論文など多様な教材を活用しながら、文や発話の流れ(情報構造)を学習します。本ゼミ

では、英語母語話者の使用事例を集めたコーパスや、生成AIを積極的に活用し、自身の英語力を分析・可視化した上で、弱点の把握と克服に取り組みます。AIツールについては、AIリテラシーからプロンプト設計まで基礎から体系的に学びます。

■ 新ゼミ生へ

英文法を「知っている」と「使えること」は別であり、英文法の知識だけをもとに実践しようとしてもすぐに

限界が見えてきます。一通り英文法を学習し終えたと感じている学生は、これまでの学習とは異なる、実践に必須の知識を身につけてみませんか。英語学習に真剣に向き合い、最後までやり抜く覚悟(?)のある学生を募集します。

人数:3年生0人、4年生0人 執筆:佐藤詩恵先生

● 経営トピック

● 会計トピック

● マーケティングトピック

● ファイナンストピック

● 保険・リスクマネジメントトピック

● ビジネスエコノミクストピック

● 総合・学際科目分野

経営トピック

会計トピック

マーケティング

ファイナンス

保険・リスク

ビジネス

総合・学際科目分野

音声学・音韻論研究

篠原 靖明

SCAN ME



■ 研究テーマ

[Phonetics, Phonology, and Cognitive Neuroscience]
We will investigate how humans perceive and produce language sounds by conducting experiments. We will also examine how perception and production are different across languages. For example, English has three distinct vowels, /æ/, /ɪ/, and /a/, while Japanese has only one corresponding vowel, /a/. Japanese speakers have difficulty discriminating these English vowels, and their brain responses differ significantly from those of English speakers.

■ 活動内容

This Research Practicum in Speech Perception and Production seminar aims to enhance students' research skills in speech perception and production. Students will select or be assigned a research topic, collect and analyze data, write a conference paper, and present it at an international conference. Through these activities, students will improve their logical thinking and develop skills in data analysis and academic writing. All activities are tailored to students' interests. If they wish to undertake a study trip, arrangements can be made.

■ 新ゼミ生へ

ゼミ内では、英語の文献を読み、英語で授業も行いますが、英語力が必須ということはありません。必須なのは、研究内容を深く理解しようとする姿勢です。実験を通して多くのデータを収集し、プレゼンの準備も行うため、根気強さも重要です。高いゴールを目指すために努力できる学生の応募を強く望みます。I hope you will join us on an enriching journey studying speech perception and production.

人数：3年生2人、4年生0人 執筆：篠原 靖明先生

スピーチアクト&ポライトネス研究

鈴木 利彦

■ 研究テーマ

英語コミュニケーションにおけるスピーチアクト（発話行為）とポライトネス（丁寧さ・適切さ）のストラテジーの研究を行います。グローバル化が進む現代社会において、文脈に応じて相手の意図を正確に理解し自らの意図を効果的に伝達することが益々重要になっています。そのために重要なのが

スピーチアクトとポライトネスの理解、習得、並びに研究です。感謝、謝罪、依頼、招待などのスピーチアクトがどのように遂行され、それらのためにどのようなポライトネスが用いられているかを語用論の観点から研究します。

■ 活動内容

基本的な専門書の購読からはじめ、文献調査、データ収集・分析、プ

レゼンテーション、レポート執筆、そして最終的には卒業論文執筆を行うことにより、当該分野の専門知識を身につけていきます。アメリカ・サンタクララ大学とのオンラインフォーラム交流を通じて英語コミュニケーションにおけるスピーチアクトとポライトネスのストラテジーの実践研究を行う予定です（予定変更の場合あり）。

■ 新ゼミ生へ

相手と状況と目的に応じて私たちは言語を使い分けている、ということをお考えことはありますか？友達に「ありがとう!」、お世話になっている先生に「ありがとうございます」と無意識のうちに言うのは何故でしょうか。それは我々には言語を社会的状況に合わせて使用する能力が備わっているからなのです。

人数：3年生2人、4年生0人 執筆：鈴木 利彦先生

SDGs実践プロジェクト(上級英語)研究

バウワー ジャック ビクター

■ 研究テーマ

本ゼミでは国連の持続可能な開発目標(SDGs)への理解を深めながら、英語運用能力の向上を目指します。問題解決型学習(PBL)アプローチを用いて、地域社会に根ざした課題に取り組み、持続可能な解決策を英語で探究します。

■ 活動内容

1年間のコースを通じて17のSDGs

とその意義について考え、地域および国際的なプロジェクトの成功事例を学びます。春学期には、少人数グループに分かれ、SDGsの達成に向けて活動している地域のNPOやNGOを調査し、その活動を評価する短いドキュメンタリーを作成します。秋学期には地域課題を選び、SDGsに基づく小規模な解決策を考案・実施します。学生独

自による活動が難しい場合は、地域のNPO等との連携による調査やボランティア活動を行います。毎学期の終わりにグループ発表を行い、ゼミ全体でプロジェクトを共有・評価します。

■ 新ゼミ生へ

本ゼミでは、理論的な学びと実践的な活動を融合させることで、英語力、批判的思考力(クリティカ

ルシンキング)、チームワーク、プロジェクトマネジメント力を総合的に鍛えることができます。地域社会に貢献したい、グローバルな視野を広げたいという意欲を持つ方の参加を心よりお待ちしております。

人数：3年生3人、4年生0人 執筆：バウワー ジャック ビクター先生

英語辞書と出版

山田 茂



■ 研究テーマ

「辞書と出版」の授業の冒頭、トム・マッカーサー博士が、Concise Oxford Dictionaryをかたどった缶から豆辞書を取り出して言いました：1.辞書は教育的な書物であると同時に商品であるため、予算、人件費等、ページ数、納期も決まっている；2.そのような制約の中で使用対象を念頭に、採算が合うように企画されていて、豆辞書もやはりである。つまり、売れるように、限

られた箱の中に、情報を取り出しやすく収納しているのです。Lexicographyは辞書の「研究」と「作成」の両方を指します。英語辞書以外の辞書類、学習参考書、ネット辞書、アプリも研究対象になります。辞書は発音、文法、意味、用法、語源を含みますので、英語そのものも研究の対象になります。

■ 活動内容

・辞書(学)他に関する講義・ディスカッション
・代表的な論文、本の輪読

・英語力向上(発音、プレゼン、ライティング(プレゼンスクリプト等))
・出版業界からゲストを招いての講演

■ 新ゼミ生へ

本ゼミでは、山田先生の研究テーマである英語辞書を背景に、実用的な英語能力向上のための活動も行っています。総合・学際科目分野のゼミとして2026年度に開設されたばかりの山田ゼミを共に盛り上げていきましょう！

人数：3年生2人、4年生0人 執筆：山田茂先生、中川翔暉、畔上慶大

ドイツ文化研究

■ 研究テーマ

本ゼミは1871年から1945年までのドイツ科学史・文化史を対象とする。植民地主義、人種主義、民族衛生学、優生学を中心としながら、当時の人間の思考と他者に対する眼差し・表象の政治を明らかにすることを主な目標とする。旅行記・探検記などの一次資料をはじめ、人類学、医学、地政学、動

物学など多様な視点を交えながら、既存のカテゴリーを問い直す思考と表現を目指す。また、ドイツと日本の間の思想的・文化的交流にも目を向け、比較の視点を養う。

■ 活動内容

小説・専門書・映像・ポスターなどを扱いながら、テーマに関連する問いをグループで共有し、検討する。プレゼンテーションや議論

を通して、作品と理論を結びつけ、自らの視点を鍛える。異なる分野の思考と出会いながら、「読む」・「見る」という行為の可能性を再発見する場でもある。特に4年生は、ゼミでの議論と探究を基盤に、卒業論文の個別指導も行う。

■ 新ゼミ生へ

このゼミでは、「当たり前」を疑うところからすべてが始まる。現代

社会の構造、制度、文化に潜む「見えにくい規範」や「排除された声」に目を向け、自分ならではの問いを育てていこう。本や映画を通じて、思考の限界を越えていく冒険に踏み出そう。「読めないものを読む」「名前のない感覚にかたちを与える」—そんな試みに挑戦したい人を歓迎する。

執筆：クラウド マヌエル フィリップ

クラウド マヌエル フィリップ

メディア文化研究

■ 研究テーマ

ディズニー映画が原作のメルヘンと違うストーリーなのはなぜ？/アニメが2.5次元舞台になるときどんな変化が生じる？/〈聖地巡礼〉(コンテンツツーリズム)などファンダムによる文化実践は何を生み出す？etc. —このゼミでは、文字テキスト、映像からデジタルメディアに至る多様なメディアにおいて展開される文化的現象(文学、映画、アニメ、漫画、ゲーム、写真、

MVなど)をめくり、メディア研究や文化研究(カルチュラル・スタディーズ)、映画研究、比較文学比較文化などの視点から学際的に調査・分析・考察を行ないます。

■ 活動内容

3年次はメディア文化を学術的に研究する方法について、重要文献を講読しながら身近な現象を手がかりに学習します。とくに、1)コンテンツ文化の【生産】/2)メディアを通じた【流通】/3)

【受容】のなかで生じるイノベーション、の3つの側面に注目します。

文献講読はグループ発表のかたちで進めます。たんに理論を理解するだけでなく、具体的な事象の分析ツールとして「使える」ように活用・習熟しましょう。4年次ではみなさんそれぞれが関心のあるメディア文化現象についてリサーチし、研究発表にまとめたうえで、ゼミでのディスカッションを踏まえて卒業論文を作成します。

■ 新ゼミ生へ

「メディア文化研究」ゼミは2026年度に産声を上げたばかりの新しいゼミです。ぜひ〈2期生〉としていっしょにゼミを作り上げてみませんか。広くメディア・コンテンツに関心のあるみなさんの参加をお待ちしています。

人数：3年生6人、4年生0人 執筆：柳橋 大輔先生

柳橋 大輔

フランス映画研究

■ 研究テーマ

このゼミは三つの目的があります。1. 名作と珍しい映画の鑑賞を基に映画の特徴を分析します。特に台詞と映像の関わりについて考えて、映像の力を注目します。2. 映画は異国の文化、歴史、社会を理解できる近道として、フランスの文化とフランス人の考え方を紹介します。3. 映画の評価の基準

について考えて、映画の紹介の仕方を練習します。面白いが面白くないという単純な感想に留まらないで、自分の意見を他人に伝える練習します。

■ 活動内容

娯楽映画とは一味違う様々な映画を教室で見て、先生の解釈を聞いて、映画の新しい見方を経験します。また、学生同士で映画の感想を比

べてみるディスカッションも行われます。同じ映画の十人十色の受け止め方は、映画の多様性を証拠します。

■ 新ゼミ生へ

フランス語学習のゼミではありません。第二外国語としてフランス語以外の言語を選んだ学生もこのゼミに参加できます。また、フランス映画を見たことのない学生も、

映画に詳しい学生もこのゼミを選択できます。ただし、積極的に参加する必要があります。居眠り禁止。今まで見慣れた映画と違う映画の発見と映像の力の理解で視線が広くなれば、ゼミ以外にも映画を見たいくなります。

人数：3年生15人、4年生0人 執筆：M.M.パルヴェーレスコ先生

M. M. パルヴェーレスコ

スペイン地域研究

■ 研究テーマ

当該教員の専門は言語学(スペイン語・日本語の比較対象)であるが、現代のスペインについて学際的な視野も持ち合わせている。スペインと日本の社会は、異なる点が目立つのも確かではあるが、類似点もある。さらにまた、お互い似たような問題に直面していることも事実である。特に次の3つの点について、スペイン・日本の対照研究ができるようにゼミを

開きたい。

- ・地方の問題(少子高齢化、その対策と政策)
- ・観光産業がもたらした諸問題(治安、迷惑行為、物価高騰、等)
- ・Turismo Rural(外国人向けではない地方観光産業)

なお、スペイン地域研究の分野に関するテーマであれば、学生のニーズや希望に合わせて内容を調整することにもやぶさかではない。

■ 活動内容

スペイン地域研究では、基本的にまずビジネス・スペイン語を学びながら、スペイン経済の特徴を把握し、ゼミ生が提案したテーマについて知識を増やします。3年生のゼミではCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)B1レベルのビジネス・スペイン語を勉強し、4年生のゼミではB2レベルのビジネス・スペイン語を取得します。プレゼンテーション、レポートや論文などは学生が自ら

で選んだ研究テーマについてのものになります。

■ 新ゼミ生へ

本ゼミのスペイン語はゼロから始めるものではありません。1年生の時にスペイン語を選び、2年生の時もスペイン語の選択科目(2つ以上)を勉強したという学歴がなければ本ゼミのスペイン語はとて難しいかと思えます。

人数：3年生1人、4年生0人 執筆：ロペスハラ サンティアゴ先生

ロペスハラ サンティアゴ

● 経営トピック

● 会計トピック

● マーケティングトピック

● ファイナンストピック

● 保険・リスクマネジメントトピック

● ビジネスエコノミクストピック

● 総合・学際科目分野

東アジア文化研究

小川 利康



■ 研究テーマ

東アジア（日本、中国、台湾、香港、韓国など）における地域社会の諸相を比較文化論の視点から探究するゼミです。日本との相互比較だけでなく、東アジア全体を俯瞰する多角的比較研究も行います。ゼミ参加には、中国語か朝鮮語（韓国語）の学習歴があるか、どちらかを母語

とすることを要件とします。ゼミ生がそれぞれ言語学習を通して感じた違和感を手がかりに、異文化とどのように上手に付き合うかを幅広く話し合える場になりたいと思います。

■ 活動内容

このゼミで学習する内容は文化研究が中心ですが、東アジア文化がカバーする範囲は非常に広

汎です。人類学、社会学に係わる社会論、国地域で異なる衣服、料理など風俗習慣論だけでなく、サブカルチャー研究も歓迎します。東アジア文化に係わる問題が含まれていれば、ビジネスも取り上げます。教員は皆さんの意欲を具体化するお手伝いをします。

人数：3年生0人、4年生0人 執筆：小川利康先生

中国語圏の歴史とアイデンティティ

中村 みどり



■ 研究テーマ

中国大陸、香港、台湾の近現代史を取り上げながら、その時代やジェンダーなどの角度から、それぞれの国・地域における人々のアイデンティティの模索について考察をかさねます。密接な交流がありながら、近年では「近くて遠い」と報道されがちな近隣の国・地域の有り様を、内側から理解し、かつ多層的に分析し、それを文章化する力を身につけることを目標とします。

■ 活動内容

ゼミ生の興味を踏まえて選ぶ、日本語および中国語のテキストを輪読し、適宜、映像資料も利用します。また担当を決めてパワーポイントを作成し、報告を行ないます。フィードバックを重ね、プレゼンテーションの基本を身につけながら、課外活動もまじえて、各自の問題意識を明確化してゆきます。秋学期には、卒業論文のテーマについて考え、論文執筆の準備を徐々にすすめます。

■ 新ゼミ生へ

これまで1～2年生を対象としたプロゼミを担当していましたが、専門ゼミとしては2026年度スタートです。今年は日中関係に興味を持った人が集まったため、日本のメディアにおける中国像の変遷に関する本を読んでいます。中国大陸、香港、台湾の歴史文化の差異について柔軟に理解し得、また自分なりの興味を持っている人の参加を希望します。

人数：3年生2人、4年生0人 執筆：中村みどり先生



2025年度 早稲田商学学生懸賞論文 入賞論文

2025年度の「早稲田商学学生懸賞論文」では、大学院生の部と学部学生の部にあわせて27篇の応募がありました。

1篇の論文につき原則2名(ときとして3名)の先生方によって、論文のテーマ・論文の展開・文章表現について評価される一次審査、および、その結果をふまえた合同審査会での厳正なる審査の結果、下記の方々が入賞しました。

■大学院生の部

優秀論文賞

石井 美帆 「集積の価値」

黒川 桃子 「How Achieving Regulatory Legitimacy Shapes Impression Management」

■学部学生の部

最優秀論文賞

中島 仁、佐藤 克樹、関口 彰、チン ブンケツ 「GIが寄附獲得競争に与える影響」

優秀論文賞

吉永 武史、岡本 裕也、山口 楓真、戸田 悠希 「企業間ネットワーク構造の形成プロセスがイノベーションに与える影響」

吉田 芭菜、岸田 一輝、町田 優郁 「東証のPBR改善要請が企業の株主還元行動へ与えた影響」

川上 真宙、作道 美奈、藤巻 咲都、三和 建友 「人口ボーナスが経済成長に与える影響の異質性」

眞崎 昂 「国籍による二重価格制度が顧客心理に与える影響とその要因の解明」

佳作

新井 花菜 「新興産業における規制突破と事業拡大の戦略プロセス」

栗谷 英里、坂野 なな、福島 美空 「世界の株式保有期間の決定要因」

大石 莉鈴、高倉 尚宏、吉田 光希 「釣りタイトルが内容の満足度や理解度に与える影響」

高橋 杏太 「時間的ベネフィット訴求型パッケージが消費者の購買意向に与える影響とその要因の解明」

※ 各賞入賞論文は応募受付順に並んでいます。

早稲田商学学生懸賞論文応募のお誘い

早稲田商学学生懸賞論文は、学生の皆さんの学業面における成果である優秀な研究論文を表彰するとともに、その成果を内外に知らしめることを目的として、早稲田商学同攻会が運営しています。卒業論文やゼミ論文などの研究成果は、多くの場合ゼミ等の内部でのみ共有されます。しかし、せっかくの成果ですから、多くの人たちに知ってもらうことも大切です。ゼミの先輩や担当教員だけでなく、他の教員から評価を受けることで研究のさらなる深化が達成できたり、研究成果の客観的な評価を得られたりすることにもなります。

審査の結果優秀と認められた論文については、『早稲田商学学生懸賞論文入賞論文

集』に掲載され、論文集は商学部の教員や学生に配付されます。特に優秀と判定された論文については、その後の査読を経て、教員の研究成果をまとめた学術誌である『早稲田商学』または『文化論集』に掲載され、全国各地の大学図書館等に配付されます。また、表彰式においては、早稲田商学同攻会会長である商学部長より、賞状と副賞(賞金)が授与されます。

早稲田商学学生懸賞論文には、すべての商学部生が応募できます。近年では、1・2年生の応募がありませんが、過去には1・2年生が応募した論文が入賞することもありました。研究テーマが商学に限定されているわけではないので、自身の興味があるテ

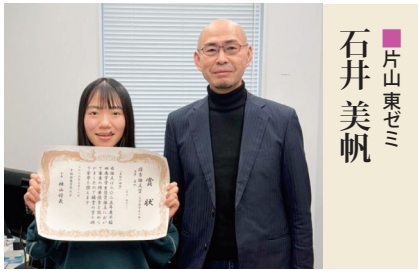
マでの研究論文の執筆が可能です。また、個人でもグループでも応募可能です。なお、プロゼミを含むゼミ所属者については、ゼミごとの論文応募篇数に制限がありますので、ゼミ内で相談・調整してください。

2026年度の詳細なスケジュールについてはまだ確定していませんが、例年1月上旬から中旬に応募を受け付け、3月初めに審査結果の発表、3月中旬から下旬に表彰式という流れになっています。12月ごろに商学部WebページやMyWasedaの「お知らせ」を通じて日程の詳細をお知らせします。

多くの皆さんの応募をお待ちしています。

早稲田商学同攻会編集委員会

大学院生の部 優秀論文賞 集積の価値



石井美帆
片山東ゼミ

執筆動機

もともと、学部3・4年の2年間グループで取り組んできた懸賞論文に、最後は個人で挑戦したいという思いがありました。そこに指導教授からのGoサインが加わり、修士論文を改訂して提出することにしました。

論文の内容

コンパクトシティは「望ましい」ものなのかというのが、研究の出発点です。本研究では、人口の空間的な集中(集積)が地価に与える影響を分析しました。土地開発の制約となるような地形の空間的配置を操作変数とした二段

階最小二乗法による推定を行った結果、人口の集積が地価の上昇を引き起こすことが明らかになりました。さらに、人口の集積が地価に与える影響の大きさを、人口密度による影響の大きさと比較したところ、人口の集積度合いの変化による地価の変化の大きさは、人口密度の変化に伴うものを大きく上回る可能性が示されました。これらの結果は、集積が家計や企業に便益をもたらすこと、また、都市計画やインフラ投資に関する意思決定、そして都市構造の分析においては、人口密度だけでなく、人口の空間的な分布も考慮に入れる必要性が高いことを示唆しています。

執筆にあたってのエピソード

今年の懸賞論文(=修士論文)はグループではなく個人研究であった上に、地図データ(位置が意味を持つデータ)を使用したため、試行錯誤に多くの時間を取られた1年間でした。まず、個人作業となったことで、マンパワーも考え方の多様性も監視の目も圧倒的に減少しました。この点については、大学院の同期とゼミの

後輩にたくさん助けられました。また、勢いで地図データとGISに対峙することを決めた結果、複数台のPCを数日回してデータセット構築のための処理がようやく一つ終わるといって大きな作業を行うことになりました。時間はかかりましたが、誰でも簡単に作れるわけではない独自のデータセットを構築している感覚は、その後の研究のモチベーションに繋がりました。

後輩の皆さんへのメッセージ

研究において大変だったことを挙げればキリがないですが、それでも、懸賞論文に挑戦したことは正解だったと心から思えます。もしも、挑戦する選択肢を容易に選ぶことができる環境にいたのであれば、ひとつの論文の作成に1年弱という長い時間と多くのキャパを投下してみてください。きっと、面白い経験になると思います(自分が懸賞論文を3年間で3本提出するなんて、そしてそれに付随するさまざまなことを体験するなんて、学部2年生の頃は1ミリも想定していない世界でした)。

大学院生の部 優秀論文賞 How Achieving Regulatory Legitimacy Shapes Impression Management



黒川桃子
山野井順一ゼミ

執筆動機

今回の論文は、私が関わっていたNPO法人での活動が出発点です。SDGsに関する取り組みに触れる中で、「良いことをしているように見せているだけではないか」と感じる場面があり、いわゆるSDGs washingに対して違和感や苛立ちを覚えました。そこで抱えている違和感が事実かどうか、企業の実態を見たいと思いました。調べる中でdiversity washingに関する研究に出会い、自分の問題意識と重なると感じたことが、この論文のスタートでした。

論文の内容

論文では、企業の「実態」と「発信」の関係に注目しました。特に、日本の障害者雇用制度のように、法律で明確な基準(法定雇用率)が定められている環境において、その基準を満たしているかどうか、企業の情報開示の仕方にどのような影響を与えるのかを分析しました。具体的には、企業のCSRレポートを対象にテキスト分析を行い、障害者雇用に関する取り組みの記述量を定量化しました。その上で、各企業の実際の障害者雇用率と法定基準との差を用いて、どのような状況で記述が増えるのかを検証しました。

その結果、基準を満たしていない企業ほど、改善が見られたときに強く「取り組んでいること」を発信する傾向がある一方で、基準を達成した後は、同じ改善でも発信の増加はそれほど大きくないことが分かりました。つまり、企業の情報発信は一律ではなく、「どの状態にいるか」に依存して変化する可能性があることを示しました。この結果は、企業の情報発信

が単なる誇張ではなく、制度的な評価環境の中で形成されている可能性を示唆しています。

執筆にあたってのエピソード

分析の過程では、データの扱いや手法選択に悩むことも多く、思うように結果が出ない時期もありました。また、文章として論理を整理するだけでなく自分の研究の面白さを伝えるように書く難しさも強く感じました。何度も分析し直したり書き直したりして、もがいたことで形になった時は嬉しかったです。

後輩の皆さんへのメッセージ

読んでくださり、ありがとうございます。論文執筆を通して、「違和感」を大切にしておかったと思います。自分が生きている中で感じた違和感だからこそ、最後まで根気強く頑張れました。もちろん人によって異なると思いますが、違和感が、研究の出発点になることがあるので、ぜひ違和感を捨てずに拾い上げてみてください。

最優秀論文賞 GIが寄附獲得競争に与える影響



■片山東ゼミ グループ4名
中島仁、佐藤克樹、
関口彰、チンブンケツ

執筆動機

私たちはもともと地域創生や関連した取り組みに興味がありました。地方創生のカギとして、高付加価値化や、地域の稼ぐ力というのが重視されています。しかし高付加価値化といっても、価格が高くなると、多くの場合購入数は減ります。また、高付加価値化には品

質管理や規格統一等のコストもかかります。そこで、地域に意識が向けられるふるさと納税の場において高付加価値化が本当に収入増加をもたらすのかを検証することにしました。

論文の内容

市区町村が地理的表示(GI)登録産品を保有することが、ふるさと納税の寄附獲得競争にどのような影響を与えるかを分析しました。GIとは、神戸ビーフや夕張メロンのような特産品を国が保護する制度です。私たちはGI登録のタイミングが市区町村ごとに異なる点を踏まえた差の差分分析(Staggered Difference-in-Differences)を行い、GIを保有する市区町村では、非保有の市区町村に比べ、寄附受入総額が平均して約35%減少することを示しました。総額減少の主因は寄附受入件数の減少にあります。一方で1件あたりの寄附額(単価)は上昇しており、GIが品質・真正性のシグナルとして機能し、寄附を高額層へシフトさせていることが伺えます。

執筆にあたってのエピソード

論文を執筆するにあたって、議論の重要さに気づきました。研究の意義やデータの利用可能性を考慮しながら、地域の稼ぐ力を測るにはどのような結果変数を用いるのが適切かという議論をしました。また、意外な分析結果となり、どのような理論が総額減少のメカニズムを説明できるのかというような議論もしました。議論やそれに伴う修正は大変でしたが、研究の面白さを感じたとともに、そのような試行錯誤の上に研究成果があるということを実感しました。

後輩の皆さんへのメッセージ

大学は正解のない問題に取り組む場とよく言われますが、論文執筆はまさに正解のない問題と言っているでしょう。研究テーマを決め、より良い分析をして、より良い論文にするためにはどうすれば良いのかを試行錯誤することは、私たちが大学で何を学ぶのかを考えさせてくれます。大学での学びの集大成としてぜひ論文を執筆してみてください。

優秀論文賞 企業間ネットワーク構造の形成プロセスがイノベーションに与える影響



■片山東ゼミ グループ4名
吉永 武史、岡本 裕也、
山口 楓真、戸田 悠希

執筆動機

近年、企業がもつアライアンス・ネットワークの特定の形状が、企業パフォーマンスにどのような影響を与えるのか、数多くの研究がなされています。しかしながら、その効果を正確に識別することは容易ではなく、実証研究の結果は必ずしも一貫したものではありません。先行研究を読み進めるうちに、ネットワークの形成のされ方に着目することで、実証をより確かなものにする革新的な研究が見つかったため、

その研究のアイデアをさらに発展させるべく、懸賞論文の執筆に臨みました。

論文の内容

国内製業のアライアンスデータを用いて、ネットワーク構造が企業のイノベーションに与える影響をその形成履歴に着目して分析しました。従来の研究で用いられてきたネットワーク構造の水準を、その変化を累積したストックとして捉えるとともに、当該変化を自己主導による形成と他者主導による形成という形成タイプ別に分解することで、イノベーション促進効果の異質性を検証しました。分析の結果、企業が主体的に構築した自己主導のネットワーク構造のストックのみがイノベーション創出を有意に促進し、さらに、新たなネットワーク再編がもたらす効果を最大化する調整要因として機能することが明らかになりました。これらは、単に有利なネットワーク上の位置を占めることではなく、ネットワークへの主体的な関与こそがイノベーション成果創出に不可欠であることを示唆しています。

執筆にあたってのエピソード

日本の製業企業を対象とする先行研究がほ

とんど無いなかで、自分達で分析の枠組みを決めなければならず苦労しました。対象とする製業企業の妥当な選定方法について考えることから始まり、アライアンスのネットワーク構造を測る指標の導出や特許データの抽出などデータセットの作成に多くの時間を費やしました。分析を行う段階に至っても、当初想定していた分析の信頼性が揺らぐなど波乱が多くありましたが、最終的に論文としてまとまった時はほっとしました。

後輩の皆さんへのメッセージ

論文執筆では、自分達がうみだした研究成果の魅力を論理立てて伝える力が必要になります。これに応えることはとても大変でしたが、取り組んで良かったと強く感じています。今回上手くいった点、反省の残る点を振り返り、また今年も執筆に挑戦したいと思っています。皆さんも各々の学術的興味に従って専門分野の学びを深めているかと思いますが、獲得した学問知識を存分に活用する機会と捉えてぜひチャレンジしてほしいです。

優秀論文賞 東証のPBR改善要請が企業の株主還元行動へ与えた影響



■ 広田真一ゼミ グループ3名
吉田 芭菜、岸田 一輝、
町田 優郁

執筆動機

広田ゼミでは毎年3年生が懸賞論文の共同執筆に取り組んでおり、今回もその一環として執筆を行いました。テーマを決定する際に、幅広く文献や日経新聞を読む中で、東証PBR要請は株主還元を促す要因となっているのではないかと考えました。前提として、株主還元は、全ての企業にとって企業成長における

最も効率的な手段とは限りません。よって、外部圧力が企業特性にかかわらず還元行動に影響を与えている可能性に注目し、本テーマの執筆にいたしました。

論文の内容

東京証券取引所が2023年に公表したPBR改善要請が企業の株主還元行動へ与えた影響を、企業特性に注目して分析しました。分析の結果、どの企業群においても還元増加の動きが見られました。これは要請が株主との対話や市場評価を意識した資本政策を促した可能性を示唆します。さらに要請が想定していなかった企業群でも還元が増加しており、要請がターゲット企業群を超えて波及し得ることも示唆しました。

執筆にあたってのエピソード

私たちはテーマ選定に時間を要し、執筆開始は提出まで残り1ヶ月を切る11月末となりました。それまでは約2ヶ月間にわたり毎週新たな案をゼミで発表しましたが、その都度課

題を指摘され、再検討を重ね続けました。このプロセスを通して、私たちは思考力と粘り強さを高めることができたと思います。短期間での検証・執筆となりましたが、3人それぞれの強みを活かして役割分担を行い、先輩や教授の手厚いご指導を受け、議論を重ねました。その結果、最終的には全員が納得できる論文に仕上げることができました。この場を借りて、改めて感謝申し上げます。

後輩の皆さんへのメッセージ

大学の学部を卒業するにあたって、論文の執筆は非常に大きな経験になります。自分の些細な疑問が学術の中で意味を持つと実感できることは、「巨人の肩の上に立つ」という言葉を実際に感じる機会であり、さらに自らの研究活動でその疑問を解き明かすことで、その肩を少しでも支える経験にもなります。こうした学術的な経験に加えて、人と協働する経験は新たな自分を知るきっかけとなり、さらなる成長につながります。ぜひ後輩の皆さんには、こうした新しい経験を得てほしいです。

優秀論文賞 人口ボーナスが経済成長に与える影響の異質性



■ 横田一彦ゼミ グループ4名
川上 真宙、作道 美奈、
藤巻 咲都、三和 建友

執筆動機

日本が最速の少子高齢化国となり今以上の経済成長が不安視される中で、人口爆発が起きたはずの東アジア、東南アジアの一部分は経済発展をしきる前に高齢化が進行したことに着目しました。更に調べると、同じく若年層が急増したアフリカや南アジアなどでは発展が著しく観測され、それらの地域の違いは

何か、どんな媒介要因が左右するのかを追及したいと発起。結果、人口ボーナスという「生産年齢人口の増加が総人口増加を上回る現象」について研究しよう決めました。

論文の内容

私たちの論文では、人口ボーナスが経済成長に与える影響の大きさの異質性について、年代や国の発展段階に着目して検証しました。分析の結果、人口ボーナスの経済成長への影響力は近年になるにつれ、大きくなるのが分かりました。また、所得水準が高い国ほど人口ボーナスの影響も大きく、現代においてはICTの普及が人口ボーナスを享受するための環境要因となることも分かりました。本研究は、新興国や先進国の持続的な経済成長に向けた重要な示唆を与えています。

執筆にあたってのエピソード

元々計画的に進めるつもりが、現実には蛇行の連続でした。研究初挑戦の私たちは、方向性を見失ったり新規性の壁にぶつかったりと

迷走を重ね、最終的には夏のカンボジアでの発表時とは手法が全く異なる論文が完成しました。大学閉門までの議論や、締め切り直前朝4時までのオンラインMTGは大変でしたが、優しくて集中力抜群なチームの皆、そして熱心にご指導くださった先生や先輩のおかげで、最後は納得のいく形に辿り着けました。提出した瞬間の開放感と安堵は忘れられません！

後輩の皆さんへのメッセージ

懸賞論文の執筆は、単なる研究以上に自分を成長させてくれる貴重な機会だと思います。執筆過程では、膨大なデータや先行研究と向き合い、分析の結果に頭を抱える瞬間何度もあるはずですが、粘り強く研究に取り組んだ経験は、その後の就活や実務でも「自ら考え抜く力」として大きな自信に繋がります。仲間や先生との対話を大切にしてください。また、先輩はどんどん使い倒しましょう。苦勞の先に、数字や文字だけでは得られない確かな手応えが待っています！皆さんの挑戦を心から応援しています！

優秀論文賞 国籍による二重価格制度が顧客心理に与える影響とその要因の解明



■ 守口剛ゼミ
眞崎 昂

執筆動機

大学ではマーケティングサイエンスについて学んでおり、学びの集大成として形に残る成果を残したいと思い、本論文を執筆しました。テーマとして注目したのは、国籍によって価格設定が異なる二重価格制度です。近年では、観光地をはじめ、飲食店や公共交通機関など、さまざまな商品・サービスにおいて導入や検討が進んでいます。制度の倫理的な是非に関する議論は多く行われているものの、顧客心理や評価にどのような影響を及ぼすかについての研究は十分に行われていませんでした。

ここに研究の余地があると考え、研究を進めました。

論文の内容

本研究では、国籍による二重価格制度が国内顧客・海外顧客の心理にどのような影響を与えるのかを、3つのStudyで検証しました。Study1では、二重価格制度が海外顧客の価格不公平感に有意な影響を与えることを明らかにしました。続くStudy2では、海外顧客が不公平感を抱く要因について、因子分析や重回帰分析を用いて特定しました。そしてStudy3では、それらの要因を軽減することを意図した説明を加えることで、不公平感を低減できるかを検証し、適切な説明によって価格不公平感が有意に低減することを明らかにしました。理論にとどまらず、実務への応用可能性を意識して研究を行いました。

執筆にあたってのエピソード

執筆にあたって苦労したことは2つあります。

1つ目は既存研究の読み込みです。プライミング研究に関する知見が十分ではなかったため、基礎的な文献の一つひとつ読み込むところから始めました。地道な作業でしたが、論文全体の土台を支える経験になったと感じています。2つ目は外国人サンプルの収集です。実際に観光地へ足を運び、外国人観光客の方々に声をかけながら調査を進めました。約1週間調査を続ける中で、「自分の足で稼ぐこと」の大切さを実感しました。

後輩の皆さんへのメッセージ

論文執筆を通じて評価をいただいた経験は、自分にとって大きな自信になりました。執筆の過程では苦しいことや地道な作業も多ありますが、その分、完成した時や評価された時の喜びは非常に大きいです。みなさんの挑戦を応援しています。

佳作 新興産業における規制突破と事業拡大の戦略プロセス



■ 井上達彦ゼミ
新井 花菜

執筆動機

最初は、Gao&McDonald(2022)の論文を担当教員の達彦さんに教えていただいたのがきっかけでした。それは、米国の遺伝子検査を事例に、新興産業における規制の壁の突破プロセスについて解明した論文で、そこから規制×新興産業の領域に興味を持ち始めました。インパクトが大きいはずなのに、まだ未開拓領域だという点に更なる研究意義を感じ、論文内で紹介されていた事例以外への適応可能性について探り始めました。

論文の内容

みなさん、電動キックボードに乗ったことは

ありますか？大学の教室で私がそう問いかけると、今や半分以上の人が手を挙げます。そしてその中の人のほとんど全員が直近3年以内の話だと言います。「なぜ電動キックボードは、ある日突然姿を現し、私たちの移動の当たり前になったのでしょうか？」

この論文は、新しいサービスを展開する際に直面する、「古いルールが誤適用されてしまう」という規制環境の壁を、どのようにして乗り越え事業拡大したか、という点について、市場戦略と非市場戦略という二つの側面で解明した論文です。

これを読めば、電動キックボードが、いかに緻密な戦略によって「信頼」を勝ち取ってきたのか、その裏側がわかります！

執筆にあたってのエピソード

研究期間中、グループメンバーの離脱が相次いだことで不安に苛まれ、憧れだった懸賞論文へのモチベーションを維持できず苦しい時期がありました。

そんな時、院生の方に頂いた「最後の一文まで出し切る覚悟があるか？」という言葉が、

私の甘えを打ち砕いてくれました。2年前にこの懸賞論文にひたすら憧れていた自分を思い出し、覚悟を決め、そこからはその不安は全てこの研究を形にする責任感へと変わりました。

後輩の皆さんへのメッセージ

今はAIの発展で、あらゆる情報に瞬時にアクセスできる時代になりました。しかし、それと同時に何が本当に重要なのかを見失いやすい時代とも言えます。

懸賞論文で評価されるためには、溢れる情報を研究として完成させ、さらには社会的意義や適切な論拠、過不足ない構成を作り上げる必要があります。でも、これらを徹底的に考え抜く経験こそが、情報過多な世の中でも「自分にとって本当に必要なものは何か」を見極める判断軸を作る機会になります。研究としての意思表示をやり遂げる経験は、今だからこそより価値のあるものになります。執筆中は苦しいこともあると思いますが、どうか最後まで、自分の言葉を信じて書き切ってください。応援しています！

佳作 世界の株式保有期間の決定要因



■ 広田 真一ゼミ グループ3名
栗谷 英里、坂野 なな、
福島 美空

執筆動機

本論文は、ゼミ活動を通じてコーポレートファイナンスに関心を持つメンバーで執筆しました。研究の出発点は、日本企業の配当制度に着目し、配当が投資家を引きつけるための仕組みなのか、あるいは株式の魅力を高める制度なのかという疑問を抱いたことにあります。さらにそこから、配当制度が日本特有のものであるのか、海外ではどのように株式の魅力

向上が図られているのかという関心へと発展しました。近年、四半期開示義務や株式取引税など、株式の保有期間を延ばすための施策が各国で導入されている中で、これらが投資行動に与える影響を明らかにする必要があると考えました。そこで本研究では、国際比較を通じて、株式保有期間の決定要因の特定を試みました。

論文の内容

本研究では、国ごとの制度的・文化的要因が株式保有期間に与える影響を実証的に分析しました。近年、株式市場では株式の保有期間の短期化が進んでいることが見受けられますが、その程度は国によって大きく異なります。そこで私たちは、株式取引税や四半期開示制度といった制度要因や各国の文化性に起因する要因に着目し、株式の保有期間の決定要因を調べました。分析の結果、取引税の存在は短期売買を抑制し保有期間を延長させる可能性が示されたことや、開示制度、文化的要因も投資家行動に一定の影響を与えることが確認されました。

執筆にあたってのエピソード

懸賞論文への取り組みが決まった当初は、データ分析や文章作成に不安を感じていましたが、それ以前にテーマ設定の段階で大きな苦労がありました。テーマに新規性や意義があるのかについて、メンバー間で何度も議論を重ねました。さらに、テーマ設定から執筆に至るまでの過程において、ゼミの先生や先輩、同期からも多くのアドバイスをいただきました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

後輩の皆さんへのメッセージ

懸賞論文は、これまで授業で学んだ考え方や知識と現実をつなげる架け橋になります。様々な経済指標、株価の決めり方、各国の国民性など、私たちは大学に入学して多くのことを学びましたが、そのうちどれくらいの内容を期末試験以外で活用したでしょうか。学んできたことをもとに立てた仮説を実際のデータによって検証することになる論文執筆は、身につけた知識を現実に落とし込むことができる貴重な機会です。ぜひチャレンジしてみてください。

佳作 釣りタイトルが内容の満足度や理解度と与える影響



■ 村瀬 俊朗ゼミ グループ3名
大石 莉鈴、高倉 尚宏、
吉田 光希

執筆動機

SNSや動画サイトを見る中で、タイトルを見て興味を惹かれるものと、そうではないものの違いに関心を持ったのが研究の出発点です。強い言葉や不安を煽る表現で興味を引くタイトルは多いですが、それが視聴者に与える影響は整理されていませんでした。特に、視聴後の満足や理解にどう関わるのに関心があり、このテーマを選びました。クリック数などの行動データを扱っ

た研究は多い一方で、満足度や理解の観点から検証があまり進んでいなかったため、興味を惹くタイトルにデメリットがあるのか調査しました。

論文の内容

本論文では、強い感情表現を用いたタイトルと、内容をそのまま説明したタイトルの2種類を用意し、同じ動画を見た際の満足度や理解度を比較しました。強い感情表現を含むタイトルは、視聴前に高い期待を生み、その期待が満たされなかった場合、満足度が低下すると考えました。また、強い感情反応が情報処理の負担となり、内容理解に向けられる注意が分散すると推測しました。しかし結果として、強い感情表現を用いたタイトルが満足度や理解度を一律に下げるわけではないと分かりました。一方で、テーマに対する関心が低い人に限っては、感情的なタイトルの方が満足度を高める傾向が見られ、関心が低い人ほど内容そのものではなく、タイトルの印象に影響されやすいことを示しています。強い表現を用いたタイトルを単純に否定するのではなく、誰に対してどう作用するのかを整理しました。

執筆にあたってのエピソード

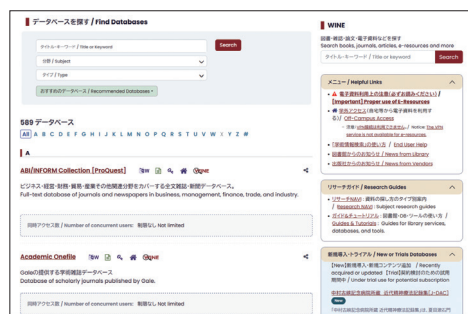
本研究では、オンライン実験の設計とデータの扱いに多くの時間を使いました。タイトル以外の要素を揃える必要があったため、動画の内容や見せ方にはかなり気を配りました。また、予想していたような単純な結果にはならなかったため、その結果をどう解釈するかに苦労しました。関連する理論を読み直しながら整理し、受け手の関心の違いが重要であるという結論にたどり着きました。

後輩の皆さんへのメッセージ

最初は論文執筆を大変に感じると思いますが、書き上げた時の達成感は大きいです。特に、自分で問いを立て、データで検証し、相手に伝わる形でまとめる経験は今後にも生きる貴重な経験だと思います。途中で結果が思い通りにならないこともあります。大事なことは、結果をきちんと説明することだと思います。これまでの学生生活で築いてきた論理的思考力と知識を存分に発揮し、ぜひ挑戦してみてください。

幅広い情報を活用するために

データベースの検索の仕方



卒業論文やレポートを執筆する際には、先行研究や、企業のデータなど幅広い情報を収集しなければなりません。早稲田大学では、たくさんの有益なデータベースを利用できます。早稲田大学図書館のウェブサイトの「資料の検索」から「学術情報検索」(<https://waseda-jp.libguides.com/az/databases>)をクリックしてください。

「データベースを探す」では、大学が契

約している様々なデータベースを分野別、データベース名で探すことができます。

まずは、「おすすめのデータベース」から選択して、使ってみましょう。以下に、よく使われるデータベースを表にまとめて、ご紹介します。

データベースはルールを守ってご利用ください。学術情報検索>ヘルプ>「電子資料利用上の注意」をお読みください。

| 情報の種類 | | データベース | |
|-----------|---------|------------------------------------|--|
| 所蔵資料・電子資料 | 日本語／外国語 | WINE | 早稲田大学図書館の所蔵資料や電子資料に加え、「論文・記事」の検索もできます。検索結果から大学契約データベースのコンテンツにアクセスできる場合もあります。 |
| | | CiNii Research | 国内の学術雑誌の論文等の文献検索ツール。機関リポジトリ等の研究データや研究プロジェクト情報などを含めて横断検索することができます。 |
| 論文 | 日本語 | 早稲田大学リポジトリ | 本学の研究者等が作成した学術論文、学位論文、紀要論文、ワーキングペーパー、会議録等の学術情報を保存・公開しています。 |
| | | 日経テレコン 21 | 日本経済新聞社が提供する記事、企業、人事情報の検索と閲覧ができます。 |
| 雑誌・新聞記事 | 日本語 | 経葉デジタルライブラリ | 「週刊ダイヤモンド」(1913～2018)、「DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー」(1976～2016)、「週刊エコノミスト」(1960～1979)の全文記事をPDFで閲覧できます。 |
| | | 日経 BP 記事検索サービス | 日経 BP 社が発行する雑誌のバックナンバー記事を閲覧できます。 ※短時間に大量に閲覧しないでください。 |
| | | 東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー | 「週刊東洋経済」「会社四季報」など東洋経済新報社刊行の雑誌・企業情報誌の記事を閲覧できます。 |
| | | ジャパンナレッジ Lib | 事典や辞書を中心とした総合データベース。「日本統計年鑑」「週刊エコノミスト」「現代用語の基礎知識」ほか、多数のコンテンツを提供しています。 |
| | | EBSCO Business Source Premier | 経済・経営・ビジネス関連の書誌データと全文データが含まれています。 |
| 企業情報 | 日本語 | ABI/INFORM Collection | ビジネス・経営・財務・貿易等の関連分野をカバーする全文雑誌・新聞データベースです。 |
| | | 日経バリューサーチ | 国内上場全社および非上場企業の情報を含む、企業・業界分析ツールです。 |
| | | 日経 NEEDS-FinancialQUEST | 企業財務、株式・債券、マクロ経済、産業統計などの経済データを検索、ダウンロード可能です。 |
| | 外国語 | eol | 日本企業の有価証券報告書の原文データおよび財務諸表などの数値データを含みます。 |
| | | ORBIS Global | 全世界の上場・非上場企業の企業情報・財務情報・格付情報を収録。全世界のM&A情報、ビジネス関連ニュース情報をあわせて閲覧可能。 |
| | | ProQuest Historical Annual Reports | 800社以上の北米主要企業の年次報告書(1844～2008)。 |

剽窃に関する注意

すでに出版されている書籍、論文、雑誌などから理論や統計資料などを引用する場合、ルールに則らないと、著作権上の問題が発生する可能性があります。

文化庁のHPIによると、引用として認められるためには、(1)他人の著作物を引用する必然性があること、(2)かぎ括弧をつけるなど、自分の著作物と引用部分とが区別され

ていること、(3)自分の著作物と引用する著作物との主従関係が明確であること(自分の著作物が主体)、(4)出所の明示がなされていること、に注意しなくてはなりません。

本学では、レポート等での不正行為をした場合、委員会にて審議の上、当該科目を含む履修中の全科目の単位を不可(F)とし、停学に付されます。また、2012年度より教

員向けに「レポート類似度判定機能」が導入され、不正なコピー&ペーストがされていないかどうかチェックが可能になりました。レポートの執筆には常に厳粛な態度で臨み、慎重に取り組みましょう。

●参考HP

文化庁ホームページ
(<https://www.bunka.go.jp/index.html>)



留学プログラムのご案内

留学プログラムには、大きく分けて全早大生が応募できる大学間協定プログラムと、商学部生のみ応募できる箇所間協定プログラムがあります。ここでは、プログラム等の説明の他に、商学部生による留学体験談をご紹介します。準備段階から現地での生活、授業、仲間・友人作りなどの体験談は、これから留学を考えている皆さんにとって、きっと参考になることでしょう。

早稲田大学の派遣留学プログラム

| 提供元 | プログラム名 | 内容 | 出願時期 [※] | |
|--------|----------------|---|-------------------|---------|
| | | | 春 | 秋 |
| 留学センター | 交換留学プログラム(大学間) | 派遣先大学の通常カリキュラムを履修するプログラムです。現地の学生とともに授業を受けるため、比較的高い語学力が求められます。 | 5月 | 10月 |
| | ダブルディグリープログラム | 海外の名門校に留学し、所定の要件を満たせば、本学を卒業する際に本学の学位と派遣先大学の学位を両方取得することが出来るプログラムです。高度な語学力が求められます。 | 5月 | 10月 |
| | CSプログラム | 早稲田大学の学生のために開発されたプログラムです。CS-LプログラムとCS-Rプログラムに分かれており、前者は語学力向上のサポートが数多くあるプログラム、後者は留学先大学においてある程度自由に科目を履修できるプログラムになっています。 | 5月 | 10月 |
| | 短期プログラム | 夏季・春季の休暇を利用して留学するプログラムです。長期留学へ向けての力試しとしても利用できます。 | 5月(夏季) | 11月(春季) |
| 商学部 | 交換留学プログラム(箇所間) | 商学部生のみが応募できる交換留学プログラムです。派遣先はビジネス分野で世界トップクラスの大学となっており、派遣先大学の学生と一緒に現地のビジネスについて学ぶことができます。 | 8月 | 2月 |
| — | 私費留学 | 早稲田大学の提供するプログラムに希望の留学先がない場合、自分で留学先を探して留学することになります。 | 大学・プログラムにより異なる | |

[※]日程の詳細については、留学センターHPまたは商学部HPをご確認ください。また、今後の状況によって、出願時期が変更となる可能性があります。

「留学」に関するQ&A “よくある質問”

Q. 留学しても4年間で卒業できますか？

A. 留学先で履修した科目を単位認定し、留学期間を在学期間に算入することで4年間で卒業も可能です。留学プログラムや留学先によって、留学期間中の学籍状態や取得可能単位数が異なります。事前に十分調べた上で不明点は商学部事務所へお問い合わせください。

Q. 単位認定はどのように行われますか？

A. 帰国後に各科目のシラバス、成績証明書、アカデミックカレンダー、時間割、単位認定届を提出し、申請してもらいます。各科目の授業内容および授業時間によって科目区分と単位数が決定されます。認定上限単位数は1年間40単位(半期20単位)です[※]。認定単位数は、次のうち最も適切な方法で認定します。
 ① 1.67ECTS=早稲田1単位 ② 授業時間585分(語学の場合は1,170分)=早稲田1単位 ③ 学修時間(授業+求められる自習時間)45時間=早稲田1単位。

[※]複数の期間で修得した単位を認定した場合、卒業必要単位として算入できる認定単位数の上限を60単位と定めています。そのため、既に単位認定を受けた方については、留学中に修得した単位の認定単位数の上限が異なります。詳細は商学部の手引きを確認してください。

Q. 留学してもゼミは履修できますか？

A. 2年生の秋学期から留学する場合、書類提出日および選考日に日本にいない可能性が高いです。その場合でもゼミに応募する事は可能ですが、出発前に必ず希望ゼミ教員に選考についてご相談ください。二次・三次選考の応募に関する詳細は事務所に問い合わせください。また、3年生以降の留学で所属ゼミに出席できない場合も事前に担当教員にご相談ください。



留学が教えてくれた、本当の自分



■ 商学部4年

バシューツカヤ
ミラーナ

私は、アメリカ・カリフォルニア州にある California State University, Dominguez Hills (CSUDH)へ留学しました。

私が留学に興味を持ったきっかけは、高校時代の授業です。当時、フィリピンの方と1年間オンライン英会話を行う授業がありました。最初は緊張して思うように話せませんでしたが、英語を使って海外の人とコミュニケーションを取る楽しさを知り、「もっと英語を話せるようになりたい」と思うようになりました。

そして大学入学後、周りの友人たちと比べて、自分の英語力の未熟さを強く実感しました。英語が得意な人も多く、「このままでは悔しい」「自分を変えたい」と思ったことが、留学を決意した大きな理由です。

また、もともと私はバックグラウンドがヨーロッパとアジアにあり、この国々について触れる機会が比較的多く、それらの地域にはある程度知識やイメージを持っていました。一方で、アメリカについては、映画やSNSを通して見ることはあっても、実際の生活や価値観に

ついては知らないことばかりでした。だからこそ、「実際にアメリカで生活してみたい」「自分の目でアメリカを見たい」という気持ちが強くなり、留学先としてアメリカを選びました。

アメリカの同世代の学生たちは、私にとってとても刺激的な存在でした。多くの学生が一人暮らしをしながら、車を運転し、アルバイトをし、自分の力で生活していました。日本で生活していた頃の自分とは全く違う価値観やライフスタイルに触れ、「同じ大学生でもこんなに違う世界があるのだ」と驚かされました。

もちろん、留学生活は楽しいことばかりではありませんでした。言いたいことが英語でうまく伝えられなかったり、文化の違いに戸惑ったり、孤独を感じることもありました。特に大変だったのは食生活です。料理が全くできなかった私は、しばらくオートミールを主食に生活していました。健康的ではありましたが、毎日食べ続けた結果、最後の方はオートミールを見るだけで少し悲しい気持ちになっていました。また、英語での注文に戸惑い、食べたいものと全然違うものが出てくることも

あり、「これも留学か…」と謎に納得していました。

正直、留学は「9割辛い」と感じる瞬間もあったと思います。しかし、その経験があったからこそ、自分自身と向き合う時間が増え、自分がどんな人間なのか、何を大切にしたいのかを深く考えることができました。

留学を通して得たものは、英語力だけではありません。新しい環境に飛び込む勇氣や、自分で考えて行動する力、バックグラウンドや国籍が違う人との付き合い方、人として大きく成長できたと感じています。

これから留学を考えている後輩のみなさんには、「まずは飛び込んでみてほしい」と伝えたいです。留学には、うまくいく保証なんてありません。でも、挑戦したことに後悔はありませんし、たとえ失敗したとしても、その経験は必ず自分の財産になります。そこでしか得られない楽しさが絶対にあります！

大学生という今の時期だからこそできる経験があります。ぜひ、自分の可能性を広げるために、一歩踏み出してみてください。

大学生の今「留学」という選択をすること



■ 商学部3年

金子 華奈

大学2年生の春休みから6月まで、ドイツのマンハイム大学ビジネススクールに留学しました。マンハイムはドイツ南西部に位置する街で、バロック様式のお城になっているキャンパスでは、日々勉強や議論に白熱している学生たちの活気が溢れていました。

もともと私は、「将来はグローバルにビジネスに携わりたい」という思いを持っており、大学入学時から留学を考えていました。また、新しい環境に身を置き挑戦することで自分自身を成長させたいという気持ちや、異文化への純粋な好奇心もあり、留学を決意しました。

留学先では、ドイツ語、マーケティング、ファイナンスなどを中心に学びました。マンハイム大学は世界有数のビジネススクールで、企業との結びつきが非常に強い点も特徴的でした。実務経験豊富な教授による講義や企業ゲストによる講演、ケーススタディを通し、ビジネスを実践的な視点から学ぶことができました。授業以外でも、週に1回大学の中庭で開催される名物のSchneckenhof Partyや留学生向け

イベントに積極的に参加し、多くの学生と交流できました。特に印象に残っているのは、留学先で出会った友人たちとのバリ旅行です。価値観や考え方の違いから衝突することもありましたが、最終日の夜、川辺で将来の夢や人生観について語り合った時間は今でも忘れられません。国や文化が違って、同じ志を持つ仲間と深くつながることができた経験は、私にとって大きな財産となりました。そして、英語を通してそのような関係を築けたことで、語学は単なる「スキル」ではなく、人と人をつなぐための大切な手段であることを実感しました。

また、留学生活では日々新しい環境に適応していく力も求められました。滞在許可の申請では早くから何度も手続きに足を運び、履修登録でも想定通りに進まないことがありました。さらに、ルームメイトとの生活スタイルの違いに戸惑うこともありました。しかし、そのたびに自分から行動し周囲とコミュニケーションを取りながら解決していく中で、問題解決力や行動力、協調性、忍耐力が自然と身

についたと感じています。

そして、この留学を通して得た最も大きかった学びは、「自分自身の軸が明確になったこと」です。私は留学前からグローバルに活躍したいという思いを持っていました。しかし海外の学生と交流する中で、日本独自の文化や価値観の魅力を改めて実感し、自分のモチベーションの原点が「日本」にあることに気づきました。その経験を通して、単に海外で働くことだけではなく、「日本の競争力を高め、日本人が世界で活躍できる社会に貢献したい」という新たな目標を持つようになりました。

留学は、単に語学力を伸ばすためだけのものではありません。新しい環境に飛び込み、多くの価値観に触れる中で、「自分は何を大切にしたいのか」を見つめ直す機会だと思えます。大学生という今だからこそ得られる学びがあり、この経験はこれからの人生における大きな軸になったと感じています。もし留学に挑戦するか迷っている方がいるなら、ぜひ一歩を踏み出してみてください！

就職活動を振り返って

私は2026年卒業の社会人1年目で、インフラ系の会社で働いています。まずは、自らの就職活動について、反省点とともに皆さんにご紹介できればと思います。

私が就職活動を始めたのは、3年生になる直前の春休み頃でした。就活サイトに登録し、自分の興味のある企業のマイページを作成した後、説明会、インターン等のイベントの情報収集をしていました。私は、インターン選考を受けるなかで、エントリーシートの提出だけが条件の企業ばかり選んでいました。面接に苦手意識を持っており、ずっと逃げていたのです。エントリーシートの作成についても、AIに添削をしてもらうのみで、友人や教授の方々、キャリアセンターに相談しませんでした。恥ずかしさがあったのは間違いありません。

そんな自分に甘い就職活動を続けて約1年、周りの友人は次々と早期内定をもらっていました。本選考が本格的に始まる4年生になる直前の春休みに、取り残されたのは、面接を経験せず、自信も持っていない自分でした。当然のことながら、書類選考

や面接はうまく進まず、志望業界から、行ける企業が1社1社減っていくことに強い焦りを感じていました。その後、ゼミの担当教授やゼミの友人に助言をいただき、自分の志望していた企業から内定をいただくことができました。こうして振り返ると、反省点の多い就職活動だったと痛感します。

後輩の皆さんへ

以上を踏まえて、後輩の皆さんには、次の3つのことを大切に就職活動を成功させてほしいと思います。

1点目は「慣れる」ことです。私は就職活動の終盤まで面接を避けてきたので、面接が苦手なもので怖いなと思っていました。それでも面接の数を重ねていくうちに、緊張をある程度抑えることができました。後輩の皆さんは、ぜひインターン選考等に積極的に応募し、面接を沢山経験することで、早いうちから面接に「慣れ」ておくことをおすすめします。

2点目は、「相手を意識する」ことです。ここでの相手とは、企業の採用担当者のことです。私のように、エントリーシートを誰にも見せず、意見をもらうこともなく作成して



■ 商学部卒
岡部 健太

いると、自分を客観視することができません。「伝えたい情報をわかりやすく伝えられているか。」「相手が求めているポイントを押さえられているか。」「これらは自分だけではよくわかりません。ぜひ友人や教授、キャリアセンターに積極的に相談してください。

3点目は、「愛嬌」です。ゼミの担当教授からアドバイスされたことを皆さんにもお伝えしたいと思います。それは、面接で相手に、一緒に働きたい、会話しやすいと思われるような言動が大切だということです。面接はスピーチをする場ではなく、会話をする場であると思います。面接官とおしゃべりする気持ちで臨むのも良いかもしれません。

以上の私の経験を反面教師としながら、後輩の皆さんには、就職活動を頑張っていたただけでしたら幸いです。心より応援しています！

就職活動 体験記

就職活動を振り返って

私は、2026年卒の社会人1年目です。4月から銀行で働いています。

就職活動を始めたのは大学3年の5月頃で、サークルの新歓活動が一段落した時期でした。当時は、既に多くの企業で夏のインターンシップ選考が進んでいて、就職活動の早期化を実感しました。

キャリアセンターの「インターンシップ選考は模擬試験」という助言を踏まえて、まずは夏のインターンシップ参加を目指しました。3日間以上のプログラムは高倍率で苦戦しましたが、試行錯誤を重ねる中で5日間のインターンシップに3社参加することができました。そのうちの1社で早期選考に進み、内定をいただいたのが現在勤務している銀行です。

就職活動において重要な取り組みは、企業分析と自己分析です。私は、「事業領域の大きさ」と「安定性」を軸に金融業界を志望し、さらに総合的な業務を担うことができる銀行を選びました。自身の価値観や志向が明確になると、エントリーシートに

一貫性を持たせることができます。面接においても、結論に至るまでのプロセスを順序立てて説明することが大切なので、前提となる細かな分析は非常に重要です。

私は、勤務制度や社風に魅力を感じ、現在の銀行への入行を決めました。就職活動中は何度も焦燥感に苛まれましたが、自分自身と向き合い続けることで成長を感じた1年間でした。

後輩へのメッセージ

皆さんには、実りのある就職活動をして欲しいです。社会人生活の厳しさを体感して日が浅いですが、私からお伝えしたいことが二つあります。

まず、インターンシップは自分との相性を見極める絶好の機会であることです。働く姿を具体的にイメージできるような企業が工夫して開催しているため、魅力的なプログラムであれば積極的に参加してみましょう。本選考に進むべき企業であるか、卒業後に属したい組織であるか、じっくりと考えることができます。本選考への近道になる場合もあるため、前向きに捉え



■ 商学部卒
安留 千世

てみてください。

次に、就職活動は挽回できる可能性を大きく秘めていることです。頻繁にリクルートイベントを開催している企業や、大学4年に進級する時期から本選考を始める大企業もあります。そして、書類選考や面接では必ず複数の質問が用意されています。始動の遅さや選考途中の失敗は挽回できるので、最後まで諦めずに取り組んでみてください。

就職活動は大変ですが、人生で最も自分自身と向き合える貴重なチャンスです。息抜きも挟みながら、様々な経験をして欲しいと思います。努力をすれば良い結果が必ず待っているのです。プレッシャーに負けずに向き合い続けてください。皆さんが「ここで頑張りたい」と思う場所を見つけられることを、心から願っています。

2025年度進路状況 ～キャリアセンターより～

商学部の卒業生は402企業・団体で活躍！

2025年度の進路状況について

早稲田大学学部全体の進路報告者 11,690人の進路は、就職 8,238人(70.5%)、進学 2,203人(18.8%)、資格試験受験 320人(2.7%)、その他 929人(7.9%)でした。商学部の進路報告者 885人の進路は、就職 782人(88.4%)、進学 43人(4.9%)、資格試験 32人(3.6%)、その他 28人(3.2%)となっています。就職先の企業・団体は 402件となり、業種別では専門サービスが最も多く 26.6%、以下、金融 22.4%、情報通信 16.6%、メーカー 13.6%、商業 5.5%の順となっています。

主な就職先は★表2のとおりです。

キャリアセンターについて

キャリアセンターでは就職支援をはじめ、全学年の学生を対象とした「キャリア形成」支援を行っています。大学での過ごし方や将来の進路を考えるイベントやセミナーも開催しています。詳細はキャリアセンターホームページをご覧ください。

<https://www.waseda.jp/inst/career/>



キャリアセンター (学生会館3階)

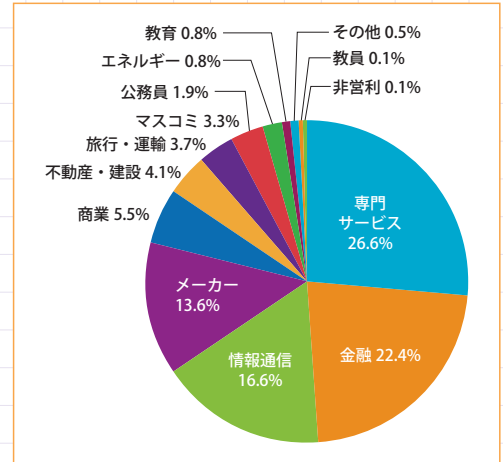


Cスペース/キャリアセンター分室 (早稲田キャンパス6号館1階)

★表1 2025年度商学部卒業生の進路状況

| | |
|-------|-------------|
| 進路報告者 | 885 |
| 就職 | 782 (88.4%) |
| 進学 | 43 (4.9%) |
| 資格試験 | 32 (3.6%) |
| その他 | 28 (3.2%) |

★図1 2025年度 商学部就職先業種別割合



★表2 2025年度 商学部就職先(3人以上)

| 企業・団体名 | 総計 | 企業・団体名 | 総計 |
|--------------------------|----|-------------------------|----|
| アクセンチュア(株) | 20 | 三菱重工業(株) | 4 |
| 合同会社デロイトトーマツ | 19 | 伊藤忠商事(株) | 4 |
| (株)三菱UFJ銀行 | 18 | 農林中央金庫 | 4 |
| (株)ペイカレント | 16 | りそなグループ | 4 |
| (株)ペイカレント・コンサルティング | 14 | (株)千葉銀行 | 4 |
| (株)NTTデータ | 13 | 野村アセットマネジメント(株) | 4 |
| EY新日本有限責任監査法人 | 12 | 三井住友カード(株) | 4 |
| 三菱UFJ信託銀行(株) | 11 | 第一生命保険(株) | 4 |
| 三井住友信託銀行(株) | 11 | あいおいニッセイ同和損害保険(株) | 4 |
| アビームコンサルティング(株) | 11 | (株)博報堂 | 4 |
| 三井住友海上火災保険(株) | 9 | レバレジーズ(株) | 4 |
| PwCコンサルティング合同会社 | 9 | 有限責任監査法人トーマツ | 4 |
| 有限責任あずさ監査法人 | 9 | (株)ペイカレント・テクノロジー | 4 |
| (株)三井住友銀行 | 8 | デロイト トーマツ グループ合同会社 | 4 |
| 大和証券(株) | 8 | (株)日立製作所 | 3 |
| 東京海上日動火災保険(株) | 8 | (株)デンソー | 3 |
| 日本電気(株) | 7 | 本田技研工業(株) | 3 |
| 日本アイ・ピー・エム(株) | 7 | 双日(株) | 3 |
| (株)NTTドコモ | 7 | (株)日本政策金融公庫 | 3 |
| ファーストリテイリンググループ | 6 | SMBC日興証券(株) | 3 |
| (株)みずほ銀行 | 6 | 日本生命保険相互会社 | 3 |
| みずほ証券(株) | 6 | 三井住友ファイナンス&リース(株) | 3 |
| 損害保険ジャパン(株) | 6 | 日本通運(株) | 3 |
| (株)野村総合研究所 | 6 | 東日本旅客鉄道(株) | 3 |
| EYストラテジー・アンド・コンサルティング(株) | 6 | ソフトバンク(株) | 3 |
| トヨタ自動車(株) | 5 | (株)サイバーエージェント | 3 |
| 野村證券(株) | 5 | 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) | 3 |
| 日本郵政(株) | 5 | 三菱UFJインフォメーションテクノロジー(株) | 3 |
| NTT東日本(株) | 5 | NECソリューションイノベータ(株) | 3 |
| (株)日本総合研究所 | 5 | マイベスト | 3 |
| シンプレクス・ホールディングス(株) | 5 | (株)Dirbato | 3 |
| みずほリサーチ&テクノロジーズ(株) | 5 | 東京都職員I類 | 3 |
| PwC Japan有限責任監査法人 | 5 | | |

キャリアセンター調べ (2026年4月3日現在)

商学研究科 商学部を卒業後に推薦入学で商学研究科に進学し、学部4年間+1年間の最短5年で修士学位を取得

5年一貫修了制度のメリット

- ◆学部4年に「+1年間」で修士学位を取得できる
- ◆「留学」＝「延長生(5年生)」ではなく、「留学+修士学位」で5年間の学生生活を送れる
- ◆学部からの継続指導で、研究成果を修士論文に結実させることができる
- ◆1年間の在学中、大学院における学費が半額で済む
- ◆推薦入学者向け奨学金受給のチャンスがある
- ◆就職活動において、「早期修了」の商学系大学院出身者としてアピールできる

学費シミュレーション

※2026年度入学者の場合



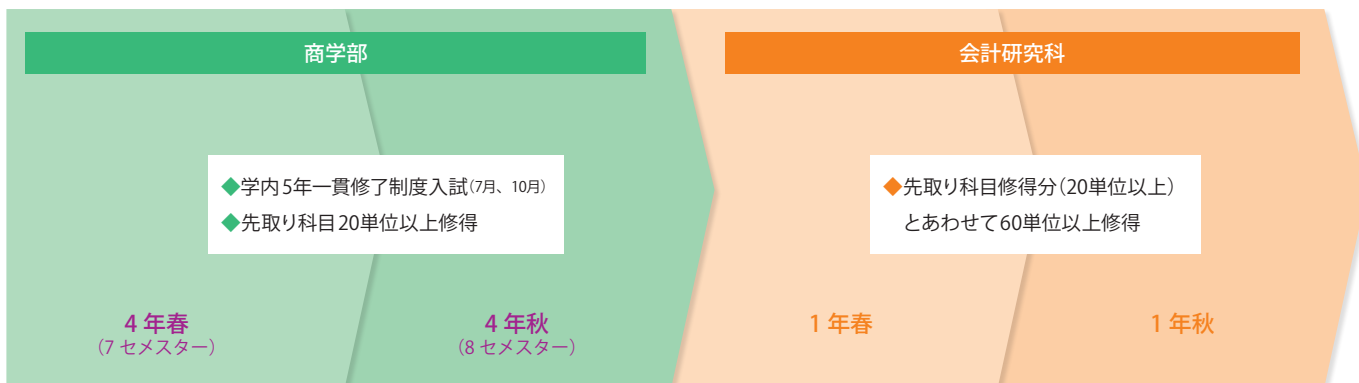
5年一貫修了制度適用者になるためには

| | 基準 |
|------------|---|
| 学部在学中の成績 | 6セメスター終了時点で、GPA2.60以上（上位25%相当） または、4セメスター終了時点でGPA2.70以上（上位20%相当）であり、5セメスター以降に2セメスター以上の留学を予定する者（休学しての留学を除く） |
| 大学院科目先取り履修 | 7セメスター以降に、大学院科目を先取り履修し10単位以上を修得すること ※本制度適用者は、大学院入学後16単位まで単位認定可能 ※学部在学中は自由科目扱い |
| 推薦入試 | 推薦入試合格者 ※出願時に、指導教員承認済みの「早期修了希望届」を提出 |

大学院進学後の条件

- ①1セメスター終了時点で修了要件単位数22単位以上修得済であること
- ②2セメスター終了時点で修了要件単位数32単位以上修得し、かつ各科目区分の修了要件を満たしていること
- ③修士論文評価がA+またはAであること

会計研究科 商学部を卒業後に、「学内5年一貫修了制度入試」で会計研究科に進学し、学部4年間+修士1年間



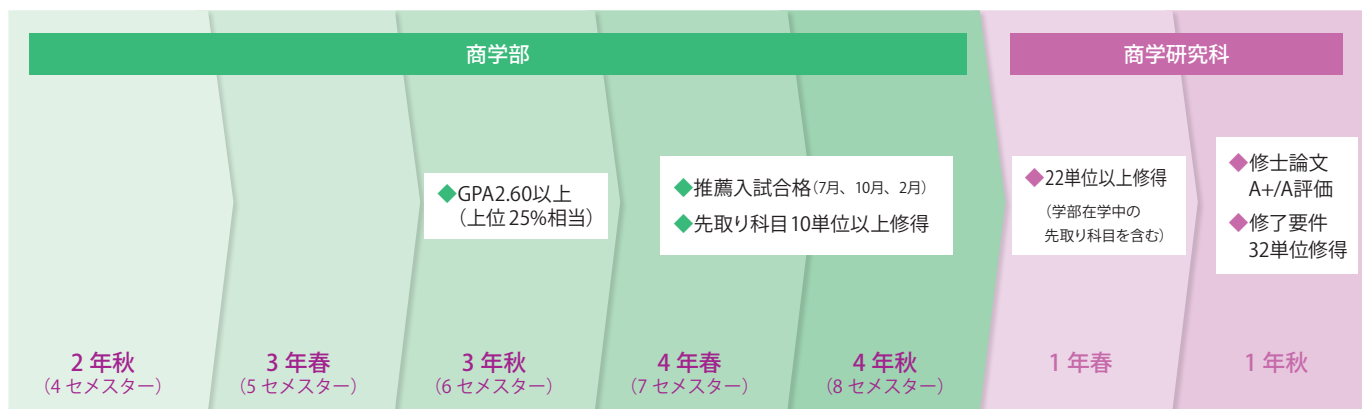
会計研究科の「学内5年一貫修了制度入試」は、商学部4年生のときに、当研究科が学部生に開放する科目（先取り科目）を20単位以上修得し、当研究科1年次において修得した単位と合わせて合計60単位以上を修得することにより、当研究科を早期修了する制度です。

できる制度です。

モデルケース (4月入学者のパターン)

出願にあたっては、ゼミ所属有無により出願時期等の条件が異なります。

一般モデル



留学モデル



※留学から帰国後、単位認定結果が6セメスター終了時点のGPA基準〈GPA2.60以上(上位25%相当)〉を満たしている場合も適用対象者となります。

の最短5年間で、修士学位を取得できる制度です。

学内5年一貫修了制度入試(7月、10月) 出願資格

| | 基準 |
|--------------|---|
| 共通 | <ul style="list-style-type: none"> ●2026年度中に商学部を卒業見込の4年生 ●出願時において、110単位以上を修得し、70単位以上が「A」以上 ●先取り科目を、4年生で20単位以上修得予定 |
| 会計専門コース | 以下の①から④のいずれかを満たしていること ①公認会計士試験短答式試験に合格している者 ②税理士試験のうち1科目以上、科目合格している者 ③日商簿記検定試験1級に合格している者 ④会計学、商法、租税法、経済学(ミクロ経済学とマクロ経済学)に関する科目につき、24単位以上が「A」以上 |
| アクチュアリー専門コース | 数学、統計学、数理経済学等の数理に関する科目につき、24単位以上が「A」以上 |

5年一貫修了制度のメリット

- ◆学部4年に「+1年間」で「会計修士(専門職):MBA」の学位を取得できる
- ◆1年間の在学で、大学院における学費が半額で済む
- ◆所定の単位を修得して修了した場合には、公認会計士短答式試験3科目が免除される

留意事項

以下の場合、当研究科に2年以上在籍し、かつ60単位以上を修得することによって当研究科を修了することができます。

- ①入試合格後、学部在籍中に当研究科の先取り科目を20単位以上修得できなかった場合
- ②先取り科目による単位と当研究科1年次において修得した単位の合計が60単位に満たない場合

商学研究科入試案内

■入試について

商学研究科修士課程の入試は一般入試と、推薦入試(商学部生対象・他学部生対象)、特別推薦入試に区分されています(表1)。

進学を希望される方は、入試要項で詳細を確認の上出願してください。入試要項は、商学研究科ウェブサイトよりダウンロードできます。

(<http://www.waseda.jp/fcom/gsc/>)

■商学研究科修士課程について

商学研究科修士課程には、図1のとおり、3コース、6専修があります。修士課程の在学期間は通常2年間で、所定の単位を取得し、所定の研究指導を受けた上で修士論文の審査および最終試験に合格すると、修士学位(修士(商学)/ Master of Arts in Commerce)が授与されます。また、商学研究科では、早稲田大学全体の留学プログラムとは別に、商学研究科独自の協定を締結し、海外のトップクラスのビジネススクール等への留学を支援しています。このプログラムを利用すると、修了時期を遅らせることなく、「在学」の扱いで留学することができます。

修了後は進学、就職等(表3)に分かれますが、本研究科で得た知識を活かし、多くの修了生が多岐にわたる分野で活躍しています。

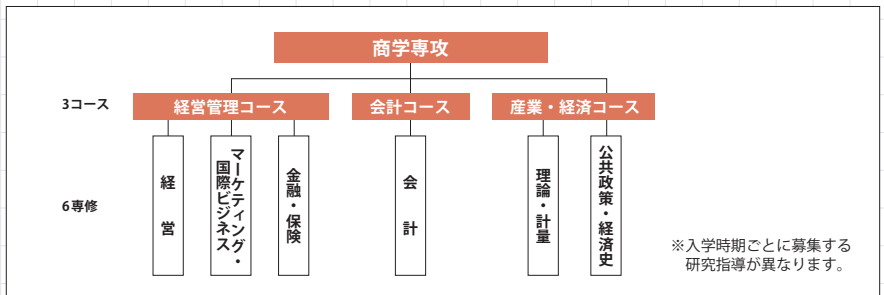
★表1 入試制度

| 入試区分 | 対象 |
|----------------|---|
| 推薦(商学部生対象) | 早稲田大学商学部在学中で、商学研究科入学までに卒業が可能であり、出願時の商学部における通算学業成績(GPA)が2.50以上の者 |
| 特別推薦(商学部卒業生対象) | 早稲田大学商学部2010年度以降に入学し、出願時点で卒業後5年以内かつ卒業時点の通算学業成績(GPA)が2.50以上である者 |
| 一般 | 大学を卒業した者 外国において16年の学校教育を修了した者 など |

★表2 入試日程(2027年4月/9月入学)

| | 入試区分 | 出願期間 | 一次選考(専門科目) | 二次選考(口述試験) | 最終合格者発表 |
|----|------|----------------------|------------|------------|------------|
| Ⅱ期 | 推薦 | 2026.6.26~2026.7.3 | なし | 2026.10.10 | 2026.10.15 |
| | 特別推薦 | | | | |
| | 一般 | | 2026.9.27 | | |
| Ⅲ期 | 推薦 | 2026.11.9~2026.11.16 | なし | 2027.1.30 | 2027.2.4 |
| | 特別推薦 | | | | |
| | 一般 | | 2027.1.17 | | |

★図1 研究指導(修士課程)



★表3 就職状況

| | 主な就職先 |
|-----------------|--|
| 学術研究、専門・技術サービス業 | アクセンチュア、EY新日本有限責任監査法人、サイバーエージェント、シェルジャパン、ソフトバンク、デロイトトーマツグループ |
| メーカー | ソニーセミコンダクタソリューションズ、ファーストリテイリング |
| 金融・保険業 | 大和総研、日本銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券 |
| その他 | NTT都市開発、松竹 |

商学部生の内部進学について

■早期修了制度(学部・修士5年一貫修了制度): 推薦入学者のみ対象

一定の条件をクリアした希望者は、【1年間の在学中で修士学位が取得】できます。詳細につきましては特集ページをご覧ください。

■先取り履修制度: 早稲田大学商学部4年生以上のみ対象

商学研究科修士課程の研究基礎科目群や専門科目群の一部科目を、商学部4年生以上を対象に先取りで履修できる制度を設けています。修得した単位については、修士課程に進学した後に修了要件算入単位として申請可能です。

■推薦入試出願サポート

推薦入試の出願には教員の推薦書が必要です。「ゼミに所属していない」「専門とする分野を変えたい」など、推薦書のことでお困りの方は、お気軽に商学研究科事務所までご相談ください。

※出願にあたってはゼミの所属有無により、出願の時期等条件が異なりますのでご注意ください(詳細は商学研究科Webページをご参照ください)。

■推薦入学奨学金

推薦入試によって、商学部から進学する学生を対象とした給付型奨学金です。学部在学中に支給されます。

● 寺尾巖奨学金(支給額: 年額30万円/1名) ● 商学部寄附講座大学院進学奨学金(支給額: 年額20万円/25名)

大学院商学研究科への進学

私の院生生活 1 (博士後期課程)

大学院に進学したきっかけ

私が大学院に進学したのは、チームをうまく機能させるリーダーシップについて深く学びたいと考えたことがきっかけです。私はこれまで野球というチームスポーツに長く取り組み、主将として成功も失敗も経験してきました。小学生の頃には県大会で優勝する一方、高校では思うような結果を残せず、仲間が途中で離れてしまう悔しさも味わいました。こうした経験から、チームが力を発揮する条件に強い関心を持つようになりました。大学2年生の時に図書館で組織行動論の本に出会い、自分の疑問に体系的な答えがあることを知りました。さらに大学3年生の時にアメリカへ留学し、その分野の基礎を学びましたが、より専門的に勉強したいという思いが強まり、大学院進学を決意しました。

大学院での生活

大学院での生活は、自らの研究が中心となります。私が所属する村瀬研究室では、企業との共同研究を通じて、データの収集・分析から論文執筆まで一貫して取り組みます。1年目には、食品メーカーの製造工場における安全性向上を目的とした研究に参加し、100人以上の従業員の方々へのインタビューを行いました。その中で、生産性と安全性を両立する難しさを実感し、当事者意識を持って研究に向き合うようになりました。2年目には大規模なアンケート調査を実施し、分析と論文執筆に取り組みました。こうした経験を通じて、研究者としての基礎だけでなく、実社会の課題をデータに基づいて捉え、解決策を考える力が身についたと感じています。

大学院進学を検討している方へ

大学院への進学を検討している方へお伝えしたいのは、専門性が求められる現代社会において、大学院は自分の興味や関心を深く掘



商学研究科
博士後期課程1年
三宅 唯斗

り下げ、それを強みに変えていくことができる貴重な場所です。自分のやりたいことを見つめ直し、それを将来の仕事につなげていくための、大きな自己投資だと思います。研究活動を通じて培われる思考力や分析力、問題解決力は、必ず今後のキャリアの支えになるはずです。私自身は研究者を目指して博士課程へ進学しましたが、同じ研究室の先輩はその専門性を評価され、企業の人事部への就職を決めています。研究者を志す方はもちろん、企業での就職を考えている方も、大学院を選択肢の一つとして検討してみたいかでしょうか。

私の院生生活 2 (修士課程)

大学院に進学したきっかけ

私が進学を意識し始めたのは、大学3年生の春でした。就職活動を通して自分自身を見つめ直す中で、より深く学問を探究したい、そして少しでも専門性を高めたいという思いが気がついたことがきっかけです。

また、当時受講していた講義の中で自分の考えや学んだ知識をうまく言語化できず、悔しさを感じたことも進学を決めた理由の一つです。知識を得るだけでなく、それを自分の言葉で伝えるアウトプット力を高めたいと思いました。

さらに、進学された先輩方の存在も大きな決め手となりました。特に、指示を待つのではなく自ら主体的に動く研究者としての自律した姿に憧れ、私も同じ舞台上で挑戦したいと強く思うようになりました。

5年一貫修了制度について

5年一貫修了制度とは、一定の要件を満たすことで、大学院の在籍期間は1年間のみで修士号を取得できる商学部生向けの制度です。学部4年次から大学院の授業を履修でき

るため、効率的に専門知識を深められることに加え、経済的な負担を抑えられる点もこの制度の魅力です。

一方で、短期間で修了は講義や研究、就職活動とも徹底した両立が求められるハードな制度であることも事実です。しかし、その分限られた時間で成果を出すための計画性や、困難な状況を乗り越えるための精神力が鍛えられ、人としても成長できる環境だと感じています。

大学院での生活

大学院の授業は少人数で行われることが多く、発言やプレゼンテーションの機会が豊富にあります。そのため、常に自分の意見を持ち、それを発信する姿勢が求められます。日々の議論を通して、着実に思考力や表現力が磨かれていることを実感しています。

また、他専修の学生や留学生、社会人経験のある方など、多様なバックグラウンドを持つ方々と関わることができ、新たな価値観に触れ、自分の視野が広がる機会が豊富にあります。商学研究科では、専門分野に限らず学際的に様々な講義を受講することができるため、自身の興味をもとに学びの幅を広げることも可能です。

研究活動では、主体的に研究を進める中で、周囲の方々にアドバイスをいただきながら修正



商学研究科
修士課程1年
成田 陽向子

を繰り返しています。教授や先輩方の専門的な視点はもちろん、進学同期からも自分だけでは気がつくことができなかった新たな視点ももらい、一人で考え込まず共有することの大切さを実感しています。

大学院進学を検討している方へ

周りに就職を選ぶ方が多い中で、進学を決断するには不安や迷いもあると思います。私自身、とても悩んだ時期がありました。実際に進学してみると大変なことも多くありますが、その経験は確実に自分の成長に繋がっていて、今ではこの選択をして良かったと思っています。

少しでも進学に関心がある方は、ぜひ先生や先輩、事務所の方々に気軽に相談をしてみてください。あなたも充実した環境で学べる商学研究科で、新たな一歩を踏み出してみてください。

会計研究科入学案内

■会計研究科について

会計研究科は、会計、アクチュアリーのプロフェッショナルを養成するための専門職大学院で、「会計専門コース」、「アクチュアリー専門コース」と「高度専門コース」の3つのコースがあります。会計専門コース、アクチュアリー専門コースは2年制で所定の60単位を修得することで修了となります。高度専門コースは1年制で所定の48単位を修得し、専門職学位論文を提出し、合格した者が修了することとなります。いずれも「会計修士(専門職)」、Master of Business Administration」の学位が授与されます。

デジタル化やグローバル化が進むビジネスの世界では、会計やアクチュアリーといった、自らのコアを持つことにとどまらず、「+1(プラスワン)」の強みを持つことが付加価値を高めます(図1)。当研究科の幅広い「文理融合」のカリキュラムのもとで、皆さんの「会計+1」や「アクチュアリー+1」をみつけてください。

「プラス1」とともに、大手コンサルティング企業・監査法人等からの提携講座(2026年度13講座、図2参照)など、カリキュラムを進化させ続けています。

学部で学んだことをより高め、グローバルビジネスで戦う武器を会計研究科で身につけてください。

■入試について

会計研究科の入試は、それぞれのコースの一般入試に加え、特色ある入試があります(表1)。商学部生の皆さんは、一般入試をはじめ、学内推薦入試、学内AO入試、学内5年一貫修了制度入試等が対象となります。入試日程等は会計研究科入試要項をご参照ください(会計研究科WebサイトでもPDFで参照できます)。また、個別相談会を含む入試説明会を定期的に実施しており、入試説明会では入試、カリキュラムについての他、模擬講義や在校生または修了生講演を行うこともあります。個別相談会では教員、在校生、修了生が皆さんからの質問を個別にお受けし、会計研究科への進学を検討するにあたり様々な相談につきまして親身に応じることを心掛けております。どうぞご利用ください。日程は会計研究科Webサイトでご確認ください。

★図1 付加価値を高める+1(プラスワン)



★図2 大手コンサルティング企業・監査法人等による提携講座

| | | |
|---------------------------------------|---|---|
| 1 生命保険の理論と経営 公益財団法人アジア生命保険振興センター | 2 金融機関のガバナンス・リスク管理・コンプライアンス EY新日本有限責任監査法人 | 3 グローバル企業へのタックスコンサルティング EY税理士法人 |
| 4 事業再生と再生型M&A 株式会社KPMG FAS | 5 企業価値向上のための内部統制とガバナンス実務 ジャパン・ビジネス・アシュアランス株式会社 | 6 IPO実務 太陽有限責任監査法人 |
| 7 会計人の経営論：起業・上場・承継の実践 辻・本郷 税理士法人 | 8 次世代マーケティングと顧客体験の変革入門 合同会社デロイト トーマツ | 9 企業価値向上のための日本企業の挑戦 合同会社デロイト トーマツ |
| 10 事業承継コンサルティング入門・実践 株式会社野村資産承継研究所 | 11 グローバル会計入門 PwC Japan 有限責任監査法人 | 12 ESG・サステナビリティ開示入門 Forvis Mazars Japan 有限責任監査法人 |
| 13 インターネット生命保険の理論と実践 ライフネット生命株式会社 | | |

★表1 入試概要

| | 一般入試 | 特色ある入試 | 学内推薦入試 | 学内AO入試 | 学内5年一貫修了制度入試 |
|----------------------|-------|------------------------|--------|--------|--------------|
| 会計専門コース／アクチュアリー専門コース | 筆記・口述 | 英語力重視* IT能力重視* 等 | 口述試験 | 口述試験 | 口述試験 |
| 高度専門コース | 口述試験 | | | | |

※会計専門コースのみ

商学部生の内部進学について

■学部・会計研究科5年一貫修了制度：学内5年一貫修了制度入試のみ対象

一定の条件をクリアした希望者については【1年間の在学中で修士学位が得られる】ようになりました。

■先取り履修制度：商学部4年生以上のみ対象

会計研究科の基礎科目など一部科目を、商学部4年生以上を対象に先取りで履修できる制度を設けています。修得した単位については、会計研究科に進学した後に修了要件算入単位として申請可能となります。

■入学前予約採用給付奨学金

会計研究科が指定する入試形態における合格者のうち、入試成績優秀等である方を対象とした給付型(返還の必要のない)奨学金です。奨学金の採用結果は入試の合格発表と共に通知し、入学後に奨学金が支給されます。

大学院会計研究科への進学

私の院生生活 1 (専門職学位課程)

会計研究科へ進学を決めた理由

大学2年生の終わりに公認会計士試験の結果が振るわず、このまま試験勉強を続けるか、就職活動に切り替えるかで考えあぐねていた時に、もう一度自分の気持ちを奮い立たせてくれたのが会計研究科でした。

当時は「会計の勉強は続けたいが、現実的に自身のキャリアも考えなければならぬ」と悩んでいました。本研究科の、会計に加えて、データサイエンスや税務などの得意分野を学びキャリアを広げられる、「会計+1」のコンセプトは、そんな私の心に響き、明確な指針を示してくれました。

学習カリキュラムだけでなく、「人との繋がりが」も理由の一つです。会計士試験の勉強で自習室にこもりがちだった私にとって、夏合宿や本研究科の専用自習室で同じ志を持つ友人と切磋琢磨できる環境は、非常に魅力的に映りました。

最終的に、学部4年の際に先取り履修制度」を利用し、大学院の講義を体験したことが進学の決め手となりました。他では学ぶことのできない実務的・理論的な内容に触れ、「ここ

で本気で学びたい」と感じ、会計研究科への進学を決めました。

会計研究科の特徴

私が進学して実感した本研究科の特徴は、二つあります。

一つ目は、「想像を超える授業の多様性」です。本研究科では、企業の第一線で活躍する実務家の方々による寄付講座や、ワークショップ形式の授業等が豊富に用意されています。資格試験のようなインプット中心の学習とは異なり、ディスカッションを通じたアウトプット型の学習が中心です。また、そこで得た知識を「テーマ研究」で深く掘り下げられる制度まであり、授業の多様さは本研究科の魅力の一つと感じています。

二つ目は、「縦横の強固なネットワーク」です。入学式直後の懇親会で同級生との横の繋がりができるのはもちろん、履修相談会などを通じて先輩方からアドバイスを頂ける環境があります。また、社会人の学生や他大学出身者の方など、様々な経歴を持つ方々と授業を通じて日常的に議論を交わすことで、日々、自身の視野の広がりを実感しています。

このように、単に資格取得を目指すだけでなく、多種多様な人々と交流し、会計のプロフェッショナルとしての土台を築けるのが本研究科の特徴です。



■会計研究科
会計専門コース1年
中西 悠人

進学を検討している方へ

会計研究科は、充実した学習カリキュラムはもちろん、貴重な経験ができる機会でも溢れています。

「興味はあるけれど、一歩踏み出す勇気が出ない」という方は、ぜひ説明会や先取り履修制度を活用して、本研究科の空気を感じてみてください。

その上で、会計研究科に行きたいと感じた場合には、商学部の皆さんには、「学内推薦入試」や、「学内AO入試」等、多様な入試形態が整っています。

会計士試験の道は苦しいこともあると思いますが、ここで得られる知識と仲間は、皆さんにとって将来を支える財産になるはずです。皆さんの将来が良いものとなるよう、心から願っております。

私の院生生活 2 (専門職学位課程)

会計研究科へ進学を決めた理由

私が大学院への進学を決めた理由は、会計をより実践的に学びたいと考えたためです。学部時代は公認会計士試験の勉強を通じて基礎知識を習得しましたが、その中で、会計が実務の現場でどのように活用されているのかに関心を持つようになりました。特に、数値を扱うだけでなく、企業の意思決定にどう関わるのかをより深く理解したいと考え、理論と実務の双方に触れられる大学院への進学を決めました。

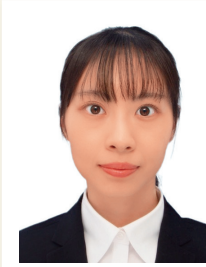
院生生活の特徴

大学院での学びは、実務との近さと主体的に学べる点が魅力です。講義によっては企業のリアルな課題に基づいたケースを扱うため、会計が意思決定にどう活きるのかを実感できます。また、研究室では教授と近い距離で議

論でき、研究の進め方や考え方を学んでいます。

こうした環境の中で、実務に触れる機会を通じて、会計士試験の知識だけでは対応できず、個々の企業の状況に応じた判断が求められる場面が多いことを実感しました。この気づきは、自分の中で会計の捉え方を大きく変えるきっかけとなりました。さらに、財務諸表データを用いたパネルデータ分析に取り組む中で、企業価値との関係を実証的に捉える力が身につけてきていると感じています。もともと関心のあったESGに加え、M&Aや金融機関の会計といった分野にも視野を広げ、会計の知見を意思決定に活かせる力を身につけていきたいと考えています。

また、提携校への留学や経理インターンなど、学外での経験の機会もあり、実務とアカデミックの両面から理解を深めることができます。授業ではディスカッションも多く、仲間と切磋琢磨しながら学べる点も大きな魅力です。こうした環境の中で、主体性や思考力が着実に伸びていると感じています。また、MBAとしての学びは、自分の将来を見つめ直す良い機会にもなりました。

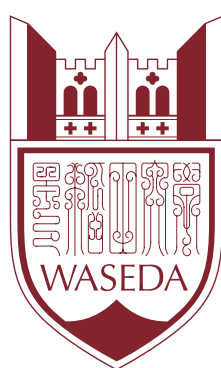


■会計研究科
会計専門コース2年
島田 恵理佳

後輩へのメッセージ

後輩の皆さんには、「少しでも興味があれば、ぜひ気軽に一歩踏み出してほしい」と伝えたいです。大学院は大変な面もありますが、その分、自分の興味をとことん深められるとても充実した環境です。新しいことに挑戦する中で、自分でも気づいていなかった強みや可能性に出会えることもあります。

将来に迷っている方や、もう一段成長したいと考えている方にとって、大学院はきっと大きなきっかけになるはずです。まずは説明会や先輩の話を通じて、ぜひ気軽に雰囲気を感じてみてください。皆さんが自分らしい進路を見つけられることを、心から応援しています！



■ 今号の表紙「大隈重信手植えの楠^{クスノキ}(大隈庭園内)」

この楠は、早稲田大学の創設者・大隈重信が熱海から持ち帰った実(苗木との説もあります)を、本邸を雫子橋(現在の千代田区九段南付近)から早稲田へ移転した際に植樹したものです。

また、この楠の実から育てられた苗木は「第二世紀の楠」として、第14代総長・奥島孝康により、商学部のある11号館と14号館の間に植樹されています。
(参考資料:文化推進部発行『キャンパスがミュージアム vol.2』)

商学部報 No.188

2026年6月26日発行

※本誌記事を無断で転載等する事を禁じます。

■発行責任者：横山 将義

■発行・編集：早稲田大学商学部 東京都新宿区西早稲田1-6-1

<https://www.waseda.jp/fcom/soc/>

■デザイン・印刷：服部プロセス(株) 東京都中央区日本橋本町4-6-7 光洋ビル4階